

第 13 期

事 業 報 告 書
決 算 報 告 書

自 令和 6 年 4 月 1 日
至 令和 7 年 3 月 3 1 日

公益財団法人 復 康 会

令和6年度 事業報告書

も く じ

I. 今期の概況	1
II. 事業活動	3
III. 理事会・評議員会の開催	4
IV. 活動報告	
[1] 軽費診療	6
[2] 精神保健相談・健康相談活動	6
[3] 研究発表	7
V. 医療活動	
[沼津中央病院グループ]	11
[鷹岡病院グループ]	17
[沼津リハビリテーション病院グループ]	20
VI. 福祉活動	
[本部・社会復帰事業部]	24
VII. 地域貢献活動	
[1] 講演開催状況	28
[2] 嘱託医の受託	31
[3] 実習病院の受託	32
[4] 大学・看護学校等への講師派遣	33
[5] 関連諸団体の活動	34
[6] 公的機関の医療・福祉活動への協力	35
[7] 受託事業	38
VIII. 職員配置状況	39

I. 今期の概況

復康会は、第5次中長期経営計画（令和5（2023）年4月～令和10（2028）年3月）を策定し、現在までに2年を経過した。計画では、法人理念「愛・信頼・貢献」を基軸に基本方針、目標、重点課題を定め、それらは具体的な内容を示す事業計画に反映される。

優先的に掲げた方針である人権意識の向上においては、かねてよりその意識を高めるよう啓発を行っていたが、折しも国の制度である精神保健福祉法が改正され、令和5～6年にわたって施行となり、各事業所において法を遵守するための業務の見直しが順次行われたことで一定の成果を実感している。現状の法人業務をふまえ、従来の医療を軸としたサービス概念を変革し、生活全般に寄与できるよう包括的な医療・福祉サービスとして概念拡大させたことは、社会全体の意識の変化も相まって、次第に職員やサービスユーザーにもその認識が根付いてきている印象を持つ。人材を経費ではなく資源として認識し最大活用していく考えを採用し、全法的に組織として経営に取り組む姿勢を明確化した点については、未だ成果を実感するに至らないが、時間をかけて徐々に目指すべき領域と考える。健全な経営を「目指す」のではなく「実現する」と改め、成果を求める姿勢を強調したところ、令和6年度は黒字化し、昨年度については良好であったが、継続できるよう今後も引き続き工夫と努力が欠かせない。

社会動向としては、世界的な紛争は収束する気配がなく、物価高騰と賃上げに向けた要請は加速的、それに対する診療報酬の設定は不相応であり、改定タイミングも要因となって、当法人に限らず医療機関は軒並み経営上の課題を深刻化させている。令和6年度は業界内で廃院や閉院のニュースも散見された。

このような深刻状況で医療業界全体が躊躇する中、優良人材の確保と流出防止、有能な職員諸氏への評価と感謝、モチベーション向上を目的に令和6年度はベースアップを実施し人件費は増加したものの、それを上回る収益を確保し黒字化に至った。令和7年度にももう一段階引き上げることを決定しており、引き続きこれらの対応が経費上昇を上回る収益増につながることを期待する。

コロナ禍で大きな影響を受けた病床稼働率は、鷹岡病院で順調に推移、苦戦していた沼津リハビリテーション病院では経営戦略を立案して回復を実現、沼津中央病院はやや苦戦に転じている。医師の開業志向や福祉領域への企業参入等により外来数は近年低減傾向であったが、その後大きな下落には至っておらず、サービスの質を確保していることが歯止めになっている可能性を考察する。精神保健福祉サービスを提供する社会復帰事業部は継続的に増益傾向で、現場の努力として評価できる状況にある。

地域に責任を持った形での専門医療（地域精神保健と精神科救急医療、回復期リハビリテーション）の提供は良質を維持しつつ継続されており、関係各所からの評価・信頼を得ている。多様化する精神科医療ニーズ（児童思春期、認知症、依存症、摂食障害、発達障害等）、指定難病や高齢者の慢性疾患療養および在宅医療ニーズへの対応も先進的に取り組んでいる。令和7年2月には新規事業として看護小規模多機能型居宅介護を行う事業所「汐かぜ」を開所した。これに伴い、通所リハビリテーションと訪問看護ステーション「うしぶせ」の業務移行・整理を行い、効率化を図った。

昨年元旦の能登半島地震以降、災害拠点精神科病院としての災害支援活動は令和6年度には発生しなかった。沼津中央病院で行った精神科医療における行動制限最小化、ピア活動の推進、早期作業療法などのリハビリテーションの充実は、引き続き業界内外から大きな関心を得ている。

人材育成面では、精神科専門医制度の専門研修プログラムの運用を継続しており、専門医資格取得等の成果を上げる一方で指導的医師の定着には課題が残る。奨学金制度は各職域での活用を推進し、関係機関への情報提供に努め、随時応募者を得ている。働き方改革に向けた対応では、勤怠システムが導入され順調に稼働している。職種を問わず人材確保には課題が多い。

沼津中央病院の電子カルテシステムが更新時期を迎え、令和7年度にフルクラウド化を予定している。この機に鷹岡病院でも新規導入し、医師人材の確保に必須の環境を整える方針であるが、それにかかる費用負担が純増となるため、新たな経営的な課題として取り組む必要がある。ハードウェアについて、建築案件等の大規模な施設整備の実施は無かった。

重点目標(第5次中長期経営計画における重点課題を踏襲)

1. 良質な医療・福祉サービスの展開
 - 1) 地域に責任を持った包括的で継続的な医療・福祉サービスの提供
 - 2) 公平で敏感な即応型医療の実践
 - 3) 適切で整合な仕事の探求
 - 4) 人権意識と当事者中心理念の浸透
2. マネジメント体制の強化
 - 1) 持続的な人材の確保・活用・育成とそのための体制構築
 - 2) 合理的な経営計画と法人運営による組織の健全化
3. 全組織的な経営参画
 - 1) 個々の職員による経営意識の向上
 - 2) 法人内各領域の有機的協働による機能的・効率的な組織支援

II. 事業活動

1. [公益目的事業]

- ① 地域に必要な専門分野の医療サービスを提供する事業
 - ・沼津中央病院
県の精神科救急医療体制整備事業にておける常時対応型施設と休日夜間電話相談（指定）の継続については、例年通り活発に運用し、本年も県下最大の診療数、相談数を計上しその活動は十分であった。
 - ・鷹岡病院
県の精神科救急医療体制整備事業にておける常時対応施設と休日夜間電話相談（指定）の継続については、例年通り活発に活動した。
認知症疾患医療センターは、専門医療相談・鑑別診断及び初期対応・研修会の開催を通じて、新型コロナウイルス感染症拡大防止のためWEB等も交えて情報発信を行った。また、富士市認知症初期集中支援推進事業を本年度も受託し、構成される専門職チームによる訪問活動等を実施した。
 - ・沼津リハビリテーション病院
回復期リハビリテーション病棟では、脳卒中を中心とする神経疾患、大腿骨近位部骨折を中心とする外傷を主たる対象としつつ、幅広い疾患や合併症にも対応するよう努め、急性期病院の後方支援病院としての役割を担った。また、療養病棟では、指定難病である神経疾患を中心として合併症にも対応しつつ、在宅ケア例に対するリハビリテーション介入を伴う支援に努めた。地域在宅困難例、回復期非対応例にも可能な限り対応しながら、在宅復帰への支援に積極的に取り組んだ。
- ② 障害福祉サービス事業
 - ・社会復帰施設
障害種別を問わず、各事業所市町を中心に障害者の地域での暮らしに関する相談、住居、就労等に関する支援を広域的に実施。また、地域行事への参加や当事者活動への協力、ボランティアの受け入れ等、普及啓発活動を通して、地域に開かれた障害福祉サービス事業所運営を行った。
- ③ 介護サービス事業
 - ・令和7年1月通所リハビリテーションを閉鎖、在宅支援事業部を新設、令和7年2月看護小規模多機能型居宅介護事業所汐かぜを開所した。訪問看護ステーションを看護小規模多機能型居宅介護の施設内に移転併設した。
 - ・訪問看護ステーションうしぶせに関しては、今後、新設した看護小規模多機能型居宅事業所・地域医療機関・地域包括支援センター等との連携強化が必要である。
- ④ 医師・看護師その他医療スタッフ育成のための学生教育実習及び臨床研修への協力事業
 - ・沼津中央病院
精神科専門医制度における専門研修プログラム機関研修施設について、近隣協力機関の協力のもと、募集数、登録数ともに確保できており順調に運営している。実習病院の受託については、看護師、精神保健福祉士、作業療法士、事務職などについて例年通り行うことができた。
 - ・鷹岡病院
研修医（初期、専門研修2名）、看護師、精神保健福祉士、作業療法士、公認心理師、臨床心理士の実習生の受入れを行った。
 - ・沼津リハビリテーション病院
大学や専門学校等の実習受託、セラピストや看護師養成に協力した。
- ⑤ 専門知識や技術向上のための研究協力事業
 - ・沼津中央病院
国、県、市町村、職能団体、研究機関、学術団体等からの要請に対して、十分に応需した。
 - ・鷹岡病院
摂食障害治療について浜松医科大学と情報共有を行った。
 - ・沼津リハビリテーション病院
新型コロナワクチン接種に協力し、高齢者施設に出向いての接種を行った。一次救急輪番への協力、VRE（バンコマイシン耐性腸球菌）感染対策連絡会議の参加、研究への協力、大学や専門学校等の実習受託、セラピストや看護師養成にも協力した。また、静岡県が行う地域リハビリテーション強化推進事業において「オーラルフレイル」に関する研修会を開催し、地域リハビリテーション支援センターとしての機能を果たした。

⑥ 無料相談、助言事業

- ・院内無料精神保健相談
沼津中央病院、大手町クリニック、あたま中央クリニック、鷹岡病院、富士メンタルクリニックの5拠点におけるIV活動報告[2]-②の実績参照。
- ・助言事業
静岡県から委託を受け、東部圏域自立支援協議会設置及び圏域相談支援のための圏域スーパーバイザー設置事業を行い、圏域スーパーバイザーとして駿東田方圏域自立支援協議会運営に貢献した。

⑦ 保健福祉普及のための啓発事業

- ・外部機関からの要請に対し、例年通り多種多様な委員を担うと共に、地域自立支援協議会の運営に協力した。
- ・社会復帰事業部では、沼津市、伊豆の国市からの委託を受け、障害支援区分認定調査を行い協力した。

2. [収益事業]

- ・特別の療養環境の提供に関する事業
より快適な療養環境を希望する利用者の要望に応え、適切な料金にて個室等を提供した。
- ・日常の支援に関する事業
入院患者の日常生活向上のため、生活に必要な衣類等の洗濯や生活物品等の調達を患者に代わって行う、あるいは委託可能な業者を紹介する等の事業を行った。
- ・不動産賃貸業
病院内に売店を設置し、業者に賃貸して運営を委託中。その他、静浦ホテル跡の土地及びヒルズ岡の宮、セジュール新大橋の賃貸、駐車場運営等を行っている。

3. [その他の事業]

- ・福利厚生事業
ウィスタリアン・ライフクラブ箱根への入会を継続し、利用者は7名だった。

III. 理事会・評議員会の開催

会議名	開催日	出席者数	主たる議題
第54回 理事会	R6.5.23	理事 8名 監事 2名	1. 令和5年度事業報告(案)について 2. 令和5年度決算報告(案)について 3. 看護小規模多機能型居宅介護事業の取り組みと通所リハビリテーション事業の廃止について 4. 令和6年度の賞与支給について 5. 就業規則の改定について 6. 評議員、理事及び監事候補者の選出について 7. 定時評議員会の招集(案)について 報告事項 ① 理事長・常務理事及び業務執行理事の職務執行状況の報告について
第21回 評議員会	R6.6.27	評議員 5名 監事 1名	1. 令和5年度事業報告(案)について 2. 令和5年度決算報告(案)について 3. 評議員の選任について 4. 理事及び監事の選任について
第55回 理事会	R6.6.27	理事 9名 監事 1名	1. 理事長、常務理事、業務執行理事の選定について

会議名	開催日	出席者数	主たる議題
第 56 回 理事会	R6. 12. 19	理事 6 名 監事 2 名	1. (有)復康商事の病院売店業務と配送業務の引受について 2. 就業規則の改定について 3. 経理規程の改定について 4. 特別職の定年再延長について 報告事項 ① 令和 6 年 9 月期の業績について ② 看護小規模多機能型居宅介護「汐かぜ」の進捗状況報告 ③ 理事長、常務理事及び業務執行理事の職務執行状況報告
第 57 回 理事会	R7. 3. 27	理事 6 名 監事 2 名	1. 令和 6 年度徴収不能損失について 2. 令和 7 年度事業計画（案）について 3. 令和 7 年度予算（案）について 4. 育児・介護休業法改正に伴う諸規程の改定について 5. 特定資産（減価償却積立資産）の取崩しについて 6. 経理規程の改定について 7. 役員賠償責任保険契約について 8. 資産運用ガイドラインの見直しについて 報告事項 ① 令和 6 年度 期末業績予想について ② 資産運用報告について ③ 令和 6 年度 公益通報報告について

以上

IV. 活動報告

〔1〕 軽費診療

医療別		生保患者		減免	減免及び 生保患者	取 扱 延人数	割合%
		単独	併用				
入院	延人数	24,618	8	0	24,626	170,047	
外来	延人数	1,198	13,786	0	14,984	117,880	
計		25,816	13,794	0	39,610	287,927	13.7%

〔2〕 精神保健相談・健康相談活動

① 院外精神保健相談

病 院 別	回 数	内 容	担 当	主 催 又 は 後 援
沼津中央病院	年1回	精神保健福祉総合相談	福原 啓史	熱海保健所
	年1回	精神保健福祉総合相談	井上 礼香	東部保健所
	年1回	精神保健福祉総合相談	藤井 恒至	熱海保健所
	年1回	精神保健福祉総合相談	井本 亘重	東部保健所
	年1回	精神保健福祉総合相談	藤井 恒至	東部保健所
鷹岡病院	年12回	富士市職員メンタルヘルス相談	谷口 弘樹	富士市役所
	年2回	精神保健福祉総合相談	高木 啓	静岡県富士健康福祉センター
	年2回	静岡県職員健康相談	〃	静岡県経営管理部
	年2回	保護者カウンセリング事業	〃	富士児童相談所
	随時	教職員面接指導	〃	富士市教育委員会
	随時	健康相談・面接指導	〃	富士地域産業保健センター
	年8回	ストレス相談	久保 伸年	富士市保健部健康対策課
	年6回	〃	鈴木 順一	〃
	年4回	県立職業訓練校精神保健福祉相談	山口 雅弘	静岡県経済産業部
	随時	犯罪被害者面接相談	久保 伸年	静岡被害者支援センター
年2回	ひきこもり家族個別相談	〃	KHJ 静岡県「いっぷく会」	

② 院内無料精神保健相談・健康相談

(件)

病院別	月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
沼津中央病院		137	179	213	227	197	182	154	174	174	134	147	183	2,101
大手町クリニック		703	692	641	706	661	597	738	645	694	656	631	684	8,048
あたま中央クリニック		89	71	106	91	72	89	91	56	78	66	49	78	936
鷹岡病院		22	15	40	36	32	36	37	23	36	24	26	56	383
富士メンタルクリニック		5	1	1	0	4	4	1	3	3	1	1	0	24

[3] 研究発表

① 学会・シンポジウム・研修会等への研究発表

沼津中央病院

1. 第10回公益財団法人こころのバリアフリー研究会総会「みんなで考える精神科強制医療」
杉山 直也 2024/6/9
2. 第120回日本精神神経学会学術総会 S43-2「根拠に基づいたPRNの推奨は可能か」
杉山 直也 2024/6/21
3. 令和6年度静岡DPAT研修「令和6年能登半島地震に関する静岡DPAT活動報告4 現場隊-準備、活動、終結後 南海トラフ地震を想定して感じたこと」日野 耕介 2024/7/14
4. 第32回日本精神科救急学会学術総会 シンポジウム6「ガイドライン2022年版薬物療法の検証：次の改定に向けた第1歩として 精神科救急症例に対する薬物療法 -ガイドラインと実際の症例の比較-」日野 耕介 2024/7/14
5. 第32回日本精神科救急学会学術総会 「墜落外相のため救命救急センターに入院となった自殺未遂者の臨床的特徴」日野 耕介 2024/10/24
6. 第32回日本精神科救急学会学術総会 理事長講演「精神科救急・急性期ケアの技術論に立ち返る」
杉山 直也 2024/10/25
7. 東京精神医学会第132回学術集会「重度の貧血による事例化を機に治療開始となった統合失調症の1例」井上 礼香 2024/11/6
8. 日本精神障害者リハビリテーション学会 第31回東京お台場大会 田畑 久美 2024/12/14
9. 令和6年度自殺未遂者ケア研修「精神科救急版」「自殺未遂者対応ガイドラインの説明」
杉山 直也 2025/1/26
10. 第3回 精神科薬物療法を学ぶ会『医療安全を踏まえた睡眠薬の使い方』単科病院の立場から
鈴木 智規 2025/1/30
11. 第38回日本中毒学会東日本地方会 講演2「救急現場における精神科的問題の初期対応
PEECコースについて」日野 耕介 2025/2/15
12. 東京精神医学会第133回学術集会「強迫症が先行した前頭側頭型認知症の1例」
伊東 慎佑 2025/3/8
13. 第43回日本社会精神医学会 シンポジウム4「精神科医療機関における行動制限最小化の普及」
杉山 直也 2025/3/14

鷹岡病院

1. 小山 隆太「にも包括の方向感をつかみとれ!」: 第9回チイクラフォーラム9 2024/9/8
2. 白川 怜小「“質の高い退院” 支援実現への取り組み」: 第13回静岡県ソーシャルワーク実践研究会
会 2025/2/1

1. 鈴木 康弘：回復期病棟退院後、3週間で再入院となった症例についての振り返り
静岡リハビリテーション懇話会 2024/8/24
2. 鈴木 惇也：てんかん性脳症を呈した症例に対してMTDLPを活用し家事動作獲得に取り組んだ一例
MTDLPを活用した臨床実習指導者 実務者研修会 2024/5/26
3. 平柳 慧：当院における摂食嚥下障害への言語療法の効果
静岡リハビリテーション懇話会 2024/8/24

② 研究論文・総説・著書発表

【論文発表】

1. Iwanaga M, Yamaguchi S, Hashimoto S, Hanaoka S, Kaneyuki H, Fujita K, Kishi Y, Hirata T, Fujii C and Sugiyama N (2024) Ranking important predictors of the need for a high-acuity psychiatry unit among 2,064 inpatients admitted to psychiatric emergency hospitals: a random forest model. *Front. Psychiatry* 15:1303189. doi: 10.3389/fpsy.2024.1303189
2. 宮崎 秀仁、日野 耕介、伊藤 翼、野本 宗孝、古野 拓、竹内 一郎：COVID-19流行前後での救命救急センターに搬送された自殺企図者の臨床的特徴. *日本臨床救急医学会雑誌* 27 巻 4 号 (Page476-483) 2024/08

【総説】

1. 杉山 直也：これからの精神科救急医療に求められること～精神保健福祉法改正と身体拘束ゼロ化を中心に～. 特別講演. *精神科救急* 27, 2-9, 2024
2. 杉山 直也：根拠に基づいたPRNの推奨は可能か. シンポジウム3「精神科救急でのPRN (pro re nata) を深掘りする」*精神科救急* 27, 56-60, 2024
3. 杉山 直也：行動制限最小化の根拠とは—非代替性を中心に—. *日精協誌* 43, 783-787, 2024
4. 杉山 直也：身体拘束ゼロの先にあるもの—病棟運営と医療安全の視点から—. 特集 多様な精神科病棟運営の現状と工夫, II. 医療安全との両立. *臨床精神医学* 53, 1229-1236, 2024
5. 杉山 直也：日本精神科救急学会. 特集 学会の歩き方. *臨床精神医学* 53, 1501-1505, 2024
6. 平沼 直人、蒔田 覚、木ノ元 直樹、杉山 直也、上拾石 哲郎、松本 幸治：任意入院者の無断離院事件. *新・判例診断. 賠償科学* 52, 74-106, 2024
7. 日野 耕介：【外来で見逃さない危険な疾患, 相談すべき症例 -気づくコツ, つなぐヒント-】
受ける側の視点 診断につながるヒント *精神科救急. 診断と治療* 112 巻 11 号
(Page1385-1390) 2024/11
8. 日野 耕介：救急コースガイド2025 PEEC. *救急医学* 49 巻 1 号 (Page76-77) 2025/1

【報告書】

1. 杉山 直也、兼行 浩史、来住 由樹、塚本 哲司、花岡 晋平、平田 豊明、藤井 千代、藤田 潔：精神科救急医療体制に関する研究～医療提供体制と患者像の相応性の観点による大規模調査～. 令和5（2023）年度 厚生労働行政推進調査事業費補助金（障害者政策総合研究事業），精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築を推進する政策研究（22GC2003），分担研究報告書，2024
2. 杉山 直也、三宅 美智、吉川 隆博、新垣 元、石井 美緒、大岡 由佳、岡田 久実子、桐原 尚之、草地 仁史、藤井 千代、吉浜 文洋：精神科医療機関における行動制限最小化の普及に資する研究（23GC1014）令和5年度厚生労働科学研究費補助金（障害者政策総合研究事業），総括研究報告書，2024

【著書】

1. 日野 耕介：IV患者背景を考慮した救急診療 4 精神疾患. 改定第6版 救急診療指針，へるす出版 Page 857-868（2024/4）
2. 日野 耕介：F 医療現場でのコミュニケーション 救急医療でのコミュニケーション. 改定第6版 精神科研修ノート，診断と治療社 Page 117-120 2024/12
3. 日野 耕介：自殺企図「もうしないって約束してください」って実際どこまで役立つの？ 救急対応のエビデンスをぎゅうっとまとめました. メジカルビュー社 Page210 2024/10

【シンポジウム】

1. 杉山 直也：精神科救急・急性期医療の役割「これからの精神科病院を考える会 最終回に向けて」. これからの精神科病院を考える会第5回（最終回）これからのわが国の精神科医療「私はこう考える」. 2024/3/23, 品川
2. 杉山 直也、竹内 晃：強制医療について当事者視点で考え直す. シンポジウム「みんなで考える精神科強制医療」. 第10回こころのバリアフリー研究会総会，2024/6/9, 東京
3. 杉山 直也：根拠に基づいた PRN の推奨は可能か. シンポジウム 43「精神科救急・急性期の興奮に対する最良の対応とは？精神薬理学・病棟管理・行動制限最小化の観点から」. 第120 精神神経学会学術総会，2024/6/21, 札幌
4. 杉山 直也、内田 千恵：精神科急性期における「早期作業療法」の意義と試み. PPST 研究会第3回 東日本セミナー，2024/7/5 日，オンライン
5. 杉山 直也：指定発言. シンポジウム 7「精神科救急急性期の作業療法」. 第32回日本精神科救急学会学術総会，2024/10/25, 盛岡
6. 杉山 直也：指定発言シンポジウム 10「精神科救急における行動制限最小化の試み」. 第32回日本精神科救急学会学術総会，2024/10/25, 盛岡
7. 杉山 直也：精神科救急医療における自殺未遂者ケアとその課題. シンポジウム 12「自殺未遂者医療をめぐるトピックス」. 第32回日本精神科救急学会学術総会，2024/10/25, 盛岡

【学会発表】

1. 藤田 裕加里、日野 耕介、長谷川 花、杉山 直也：統合失調症の初回治療後における治療継続性の課題-両親の罹病経験やリカバリーが病識獲得に寄与した一例- . 東京精神医学会第 130 回学術集会, 2024/3/9, 東京
2. 長谷川 花、山崎 将展、石川 淳、竹内 晃、山田 信昭、杉山 直也：精神科救急入院料病棟におけるピアスタッフを含めた意思決定支援の実践報告. 第 42 回日本社会精神医学会, 2024/3/14-15, 仙台
3. 岩永 麻衣、山口 創生、橋本 聡、花岡 晋平、兼行 浩史、藤田 潔、来住 由樹、平田 豊明、藤井千代、杉山 直也：精神科救急急性期医療入院料病棟の入院患者 2,064 名における高規格病棟の必要性に関する予測因子の特定：ランダムフォレストを用いた横断研究. 第 32 回日本精神科救急学会学術総会, 2024/10/24, 盛岡
4. 井上 礼香、日野 耕介、杉山 直也：重度の貧血による事例化を機に治療開始となった統合失調症の一例. 東京精神医学会第 132 回学術集会, 2024/11/16, 東京
5. 川島 義高、日野 耕介、井上 佳祐、高井 美智子、川本 静香、大高 靖史、小高 真美、米本 直裕、山田 光彦：自殺予防をテーマとした一日完結型オンライン専門職連携教育プログラムの受講効果. 第 48 回日本自殺予防学会総会 2024/8
6. 日野 耕介、杉山 直也：シンポジウム 6 ガイドライン 2022 年版薬物療法の検証：次の改定に向けた第 1 歩として 精神科救急症例に対する薬物療法 -ガイドラインと実際の症例の比較-. 第 32 回日本精神科救急学会学術総会 2024/10
7. 宮崎 秀仁、日野 耕介、伊藤 翼、須田 颯、浅見 剛：墜落外相のため救命救急センターに入院となった自殺未遂者の臨床的特徴. 第 32 回日本精神科救急学会学術総会 2024/10
8. 日野 耕介：講演 1 救急現場における精神科的問題の初期対応 PEEC コースについて. 第 38 回日本中毒学会東日本地方会 2025/2

鷹岡病院

【研究論文・総説・著書発表】

1. 山口 雅弘：「精神科病院で専門職後見人等に求められる役割～虐待防止等に関する改正内容から～」実践成年後見 No114 (P31～38)

V. 医療活動

【沼津中央病院グループ】

1. 概要

令和6年度は、法人全体として定めた第5次中長期経営計画（令和5（2023）年4月～令和10（2028）年3月）の2年目にあたり、沼津中央病院で新たに定めた以下の運営方針の下2年が経過した。

令和5-6年の2段階で施行された改正精神保健福祉法は本格的な運用開始となり、業務上の影響は大幅であったが、職員はよくこの改正を理解して対応した。かねてより当院で進めてきたケアにおける当事者性の強化は、法が求める人権意識の向上によくフィットし、地域共生社会の実現に向けた活動が実践できたものとする。医療等サービスについては例年通り安全で質の高い提供がなされ、各職員は自己研鑽、他者信頼を心掛け、社会貢献は十分に果たすことができた。働き方改革に向けて、昨年度に問題化した勤怠管理システムは法人としての対応により何とか稼働にこぎつけた。同じく法人として打ち出している人的資本経営や全組織的な経営参画の方針は、物価高騰や法人による賃上げの影響もあり、取り組みとしては進展があるものの、医療機関全般が抱えるように、実際の成果としては課題を有す。

令和7年度には、電子カルテの更新・フルクラウド化に向け、セキュリティ対策としては強化されるものの、今後の設備への経費負担が予測されている。その他にも病院建物・設備の経費が集中しており、今後は本業である医業の充実が必須の責務である。

運営方針

地域共生社会の実現に向け、信頼され、選ばれる医療機関として、あらゆるニーズに専門的に応需できるよう、責任感・気概・志をもって当事者とともに使命に取り組むとともに、安全で質の高いサービスを提供し続けられるよう、自己を高め、他者を信頼し、社会に貢献していく。

【評価】

1. 概要を参照のこと

重点目標

1. 人的資本経営のための人材育成と対応力の強化

- 1) 好人材を引き寄せられるよう、良好な労働条件、豊富な業務経験機会、充実した指導体制が整い、雰囲気が高く、活気があり、魅力ある職場を実現する。
- 2) 働き方改革への対応を通じ、個々の働き手が健全で、かつ公私ともに自己実現できるような労働環境を実現する。
- 3) 困難な業務課題に対しても適切で、かつ個々人が低負担で無理なく対応できるよう組織力を強化し、常に専門的な向上心を高める意欲を喚起できるような職場環境および体制を充実させる。
- 4) 職域に応じて、まずは各個人が標準化されたスキルを体得し、そこからさらにステップアップして専門性を高め、課題も克服できるよう、効果的な人材育成のための院内教育システムの構築を目指す。

【評価】

1) について、必要な努力を行っているが、社会の変化、国民意識の変化等により人員充足が深刻課題である。2) に関しては、法人として勤怠システムを何とか導入できた。3) については特定のスタッフに負担が集中する課題、4) では部署による違いが大きく、今後の課題である。

2. 医療サービス向上

- 1) 常に地域生活を見据え、包括的で切れ目がなく、統合的で公平なサービス体制を構築してケアを提供する。
- 2) 地域生活の中で生じる急性の危機状況に即応できるよう、良質で高水準の精神科救急医療サービスを継続的に提供する。
- 3) 当事者視点に立脚し、自立の促進によって権利と可能性を追求するケア理念に基づき、サービス提供する。
- 4) 常に探求心をもってものごとに取り組み、より確かなエビデンスと合理性に基づいたサービスの提供を目指す。

【評価】

1) については従来通り包括的なサービス体制を構築した。2) 高水準の精神科救急医療サービスを提供した。3) ケア理念に基づきサービス提供した、4) 確かなエビデンスと合理性に基づいたサービスの提供を目指した。

3. 地域に責任を持つ

- 1) 静岡県東部の精神科医療における中核的医療機関としての自覚を保ち、全職員が気概と責任感を持って当事者サービスに従事する。
- 2) 地域社会の様々な分野と連携し、広い視野を持って地域貢献することを意識する。

【評価】

1) について、全職員が責任感をもって、地域に対する責任を果たした。2) について、十分な活動には至っておらず、今後徐々に進めてゆきたい。

4. 合理的かつ組織的な経営実践

- 1) 限られた人的資源を有効に活用し、組織がその目的や目標を無理なく達成できるよう、各従事者個人が数値目標を明確に意識し、ともに協力・準備して業務に従事する。
- 2) 少子高齢化等、時代の変化に伴う社会構造や制度・体制の変革に対応できるよう、効率的かつ合理的な病院経営を実現する。
- 3) 業務を支えている建造物、インフラストラクチャー等、病院資源に対する意識を向上させ、常に感謝の念を持つとともに、持続可能な開発目標に応じた設備運用を行う。

【評価】

1、2) に関し、人的資本経営の実践に向けた各個人の目標意識の向上は途上にあり、設定した目標には届かなかった。3) について、職員としての意識向上は問題ないが、設備は耐用年数のタイミング等により漸次対応が必要となっている。

● 事業所ごとの活動（評価は本文中に反映）

1. 沼津中央病院

(1) 基本情報

- ①管理者 杉山 直也
- ②病床数 270 床
- ③所在地 沼津市中瀬町 24 番 1 号 TEL055-931-4100(代)
- ④診療科 精神科・心療内科
- ⑤主な届け出受理等：精神科救急急性期医療入院料、精神科急性期医師配置加算 1、精神科療養病棟入院料、精神科病棟入院基本料 15:1、看護補助加算 1、感染対策向上加算 3、精神科ショートケア（大規模）、精神科デイケア（大規模）、精神科作業療法、薬剤管理指導料、精神科訪問看護、静岡県東部精神科救急基幹病院、精神科応急入院指定病院、災害拠点精神科病院、日本医療機能評価機構認定（機能種別版評価項目 3rdG:Ver2.0）

(2) 医療活動

(ア) 法人内外連携による地域包括ケアサービス

- ・精神科救急医療体制整備事業における常時対応施設と休日夜間電話相談の指定を継続的に受け、例年通り運用している。
- ・医療と保健福祉の連動による包括的地域サービスの展開および地域共生社会への貢献を果たした
- ・退院支援・退院後支援（社会資源との連携や行政事業等による取り組み）は十分な実績をあげている。
- ・診療パフォーマンスについては、入院・外来共に目標値に至らなかった。
- ・入院外医療サービスの強化（包括的ケアマネジメント等）は、外来において、早期診療体制充実

加算を届出し、外来診療の強化を図った。

(イ) 多様なニーズへの対応

- ・児童思春期精神科診療は、例年通り浜松医科大学、横浜市立大学と連携し、診療実績も維持している。
- ・圏域内総合診療については、例年通り、静岡医療センター、沼津市立病院と良好な連携（リエゾン）を維持している。
- ・治療プログラム（ぬま〜ぷ、リワークおよび就労支援プログラム、摂食障害、心理教育、急性期作業療法、協働意思決定（SDM: Shared Decision Making）、栄養指導）は、いずれも十分な活動を行った。
- ・クロザピンの組織的活用（適応判断のシステム化と計画的導入による安全性の確保）を計画的に実践し問題なく運用できている。
- ・修正型電気痙攣療法（m-ECT）は、昨年と同様に高稼働を維持し問題なく運用
- ・持効性注射剤（デポ剤）は十分に活用できている。
- ・適正な薬物療法とそのための組織的な取り組みについて、診療部を中心に取り組み、部分的には課題を残す。
- ・隔離・身体拘束最小化については、ゼロ化プロジェクトの成果を継続し高水準の最小化を継続しており、国内の注目を受けている。
- ・精神療法の充実は、課題が残る。
- ・災害派遣精神医療チーム（DPAT: Disaster Psychiatric Assistance Team）については、令和6年1月の能登半島地震の際に先遣隊として活動を行った。
- ・ピア活動の更なる推進を図るために、ピアの部署を医療相談課に確立し十分な活動を行えている。

(ウ) 法令とエビデンスに基づく標準医療の推進

- ・精神保健福祉法の提出書類に遅延があり、運用面での課題が残る。
- ・標準的な治療の推進について、診療部を中心に取り組んだ。
- ・厚生労働科学研究への協力は例年通り協力を行った。
- ・職域ごとの研究推進については、部署により偏りが見られた。
- ・レジストリの活用について、外部研究発表までの成果は得られなかった。
- ・2種の治験を受け、行っている。

(エ) 人材育成と強化、活用

- ・人権意識の向上を図るため、虐待防止委員会を設置し職員向け研修を行った。
- ・クライシス対応スキル（ディエスカレーション、自殺ハイリスク等）については、全職員参加を目標に継続的に取り組んでいる。
- ・定例研修（リスク、感染、行動制限最小化、虐待防止等）は、年度計画を立案し、計画通りに開催できている。
- ・専門上位資格の取得として、1名が指定医を取得した。
- ・働き方改革への対応として、新勤怠システム（クロノス）を導入した。
- ・精神科専門医制度 専門研修プログラム研修基幹施設を運用し、順調に育成できている。
- ・デイケアでボランティアを受け入れている。
- ・奨学金制度の活用は、教育機関との連携を進めているが安定した人材確保には至っていないものの特定行為研修修了看護師など活用範囲は広がっている。

施設設備の整備計画

(オ) 既存建物設備の維持

- ・修繕計画に基づき維持に努めている。

- ・定期的な保守管理により、適切な設備更新（空調、電気、衛生等）ができています。

(カ) 人・環境にやさしい空間の創造

- ・癒し・休憩のとれる環境づくりとして中庭の整備を計画していたが、定期的な草取りの実施しかなかった。
- ・地球環境に配慮した設備管理（省エネルギーへの取り組み）として、非常灯のLED化を終了し、節電への取り組みを全職員で実施している。

地域貢献活動

(キ) 公的機関への協力

- ・国、県、市町村、職能団体、研究機関、学術団体等からの要請に対して、十分に応需した。
- ・大学、看護学校等への講師派遣を例年通り協力した。
- ・実習病院について、看護師、精神保健福祉士、作業療法士、臨床心理士の受託をした。
- ・他分野（企業等）との連携と貢献については実施がなかった。

その他の活動

(ク) 情報管理の推進

- ・情報システムの適時更新に関しては、計画に則りクラウド型電子カルテの更新に着手している。
- ・情報セキュリティ対策として、クラウド型電子カルテ更新に伴い万全なセキュリティ対策構築に着手している。
- ・医療DXの取り組みとして、マイナ保険証の利用を勧めている。
- ・人工知能（AI）活用について、昨年からは進んでいない。

(ケ) 広報活動

- ・情報発信機能の強化については、実施できなかった。

(コ) 感染症への対応

- ・新型コロナ、インフルエンザへの対応はできているが、新興感染症については情報収集にとどまっている。

(サ) 組織の健全化

- ・コンプライアンスの順守
- ・内部通報システムは、必要に応じて運用されている。
- ・第三者評価の実施はできていない。

2. 大手町クリニック

基本情報

- ①管理者 志澤 容一郎
- ②所在地 沼津市大手町3丁目1番2 エイブル・コア6F 代表 055-962-7371
- ③診療科 精神科・心療内科
- ④主な届け出受理事等 精神科デイケア(小規模) 精神科ショートケア(小規模)

医療活動

- ・外来・入院間での円滑で切れ目のない医療ケアの提供を目指し、例年通り行っている。
- ・安心して医療を受けられる・提供できる環境、体制の整備を行った。

施設設備の整備計画

- ・診療環境の継続的な改善については確認までに留まっている。
- ・クラウド型電子カルテの更新に着手している。

地域貢献活動

- ・例年通り、可能な限り地域の要請や活動に協力した。

その他の活動

- ・適切な感染対策として、手指消毒、器物の消毒、換気等を継続的に実施している。

3. あたみ中央クリニック

基本情報

- ①管理者 野田 寿恵
- ②所在地 熱海市田原本町 9-1 熱海第一ビル 2F 代表 0557-83-7707
- ③診療科 精神科・心療内科

医療活動

- ・経験・実力のあるスタッフで運営できているが、スマートな医療体制という点では人件費率や患者数に課題が残る。
- ・高齢者への治療ケアの体制として、長谷川式や心電図検査の実施、必要時には画像検査の依頼、地域支援者との連携は行えている。
- ・勉強会、研修会の実施、地域施設の見学については、施設見学は行えていないが勉強会については薬の説明会を行い、知識のアップデートはできている。

施設設備の整備計画

- ・クラウド型電子カルテの更新に着手している。

地域貢献活動

- ・サポートセンター、地域包括、施設との連携は行えている。
- ・適切な感染対策として、検温、手指消毒、器物の消毒等を継続している。

4. 訪問看護ステーションふじみ

- ①管理者 飯塚 香織
- ②所在地 沼津市中瀬町 2 4 番 1 号
- ③主な届け出受理等 精神科訪問看護基本療養費 医療観察訪問看護基本料

医療活動

- ・地域包括ケアシステムも踏まえ、連絡や会議を通じて関係機関との連携を図れた
- ・自立を促しその人らしさを支える精神科訪問看護スキルの向上についてはできた。ステーション全体での勉強会等は十分できなかった。

地域貢献活動

- ・地域の精神保健活動は、研修受け入れ、団体役員メンバー、看護協会地区支部役員、看護学校の講師等可能な限り協力した。

施設設備の整備計画

- ・WINCARE システム（クラウド型）の更新を完了し、オンライン資格確認（居宅同意取得型）を導入した。

その他の活動

- ・ルールに沿った適切な感染対策を継続し、ステーション内での感染もなく、業務への支障も来たさなかった。

入院・退院及び在院患者数

	期首在院数	期中入院数	期中退院数	期末在院数	期中延べ数	期中1日当たり
沼津中央病院	243	672	675	240	91,060	249.5

入院・外来取扱患者数

(定床：270床)

	入院		外来		デイケア 作業療法 (外来のみ)		一般外来計	
	期中延	1日当	期中延	1日当	期中延	1日当	期中延	1日当
沼津中央病院	91,060	249.5	16,208	55.3	8,169	33.8	24,377	89.1
大手町クリニック	/	/	20,345	81.6	3,610	17.0	23,955	98.6
あたみ中央クリニック	/	/	7,864	32.6	/	/	7,864	32.6

	訪問看護		作業療法 (再掲)	
	期中延	1日当	期中延	1日当
沼津中央病院	/	/	16,288	66.9
訪問看護ステーションふじみ	6,589	22.5	/	/

【鷹岡病院グループ】

1. 概要

令和 6 年度は、「開かれた、選ばれる医療機関」として、医療を通じて社会に貢献できるよう重点項目を「利用者の視点に立った良質で安全な医療と福祉サービスの提供」「マネジメント体制の強化」「全組織的な経営参画」と定め、多様な精神疾患への対応、地域の医療機関・社会資源との更なる連携、人権意識と当事者中心の浸透、人材の育成・確保、病床稼働率の目標達成による安定した経営、デイケア・訪問看護の利用者の増加に取り組んだ。

また、令和 6 年度も令和 5 年度に続き「病床稼働率を上げる」が最重要課題である事を職員に周知し安定した経営を目指し職員一丸となり取り組んだ。

2. 鷹岡病院

(1) 基本情報

- ① 管理者：高木 啓 病床数 151 床
- ② 所在地：富士市天間 1 5 8 5 番地 電話（代表）0 5 4 5 - 7 1 - 3 3 7 0
- ③ 診療科：精神科、心療内科
- ④ 主な届け出受理等：精神科救急急性期医療入院料 1、精神療養病棟入院料、精神科デイケア（大規模）、精神科作業療法、精神科訪問看護、県富士圏域精神科救急基幹病院、精神科応急入院指定病院、認知症疾患医療センター（地域型）

(2) 医療活動

- ① 精神科救急事業については例年通り迅速な対応と受け入れを行った。
- ② 認知症疾患医療センター事業は、専門医療相談・鑑別診断・初期対応や研修会の開催を通じて We b 等を交えて情報発信を行った。医療連携協議会を 5 年ぶりに対面で実施し情報共有を行った。また、「富士市認知症初期集中支援推進事業」及び「認知症の人を皆で支える地域づくり推進事業」を今年度も受託し、専門職チームによる訪問活動等を実施した。
- ③ 病床利用適正化プロジェクトチーム及び制限緩和検討チームによる取り組みの継続と、入院調整会議において病床稼働状況、在院患者数の周知徹底を図り病床稼働率の確保を行った。
- ④ 長期入院患者へのクロザリル使用を促進し、精神科救急急性期医療入院料算定基準の確保を図った。
- ⑤ 訪問看護対象者の洗い出しを実施し、多職種による訪問看護を行い、訪問看護件数の増加を図った。
- ⑥ デイケアの送迎ルートの変更、療養病棟退院患者及び外来患者への医師からのアプローチで利用者の増加を図った。
- ⑦ 行動制限最小化に向け、行動制限最小化委員会、管理運営会議等において検討を行った。
- ⑧ 病棟機能の明確化を図り、病状に合わせたスムーズな転棟及び転院を行った。
- ⑨ 院内での事故、高リスクの事例に対し、原因分析と有効な再発防止策の立案と確実な評価を実施した。
- ⑩ 身体科救急医療機関である富士市立中央病院・富士宮市立病院や富士市・富士宮市の救急医療センターとの連携を引き続き図っている。
- ⑪ 令和 7 年度中の電子カルテの導入に向け、委員会において機種を選定及び仕様確認と機器の必要台数の調査を実施した。
- ⑫ 摂食障害治療について、昨年度に続き浜松医科大学との情報共有を行った。
- ⑬ うつ・自殺対策の取り組みとして、富士市・富士市医師会等と連携し紹介システムの再周知及び県と連携し自殺未遂者支援ネットワークの構築を図った。
- ⑭ 多様化する精神疾患への対応として富士児童相談所との連携を図った。

(3) 施設設備の整備計画

- ① B棟4階会議室、機能訓練室の空調設備の交換工事を実施した。
- ② A棟屋上防水工事を実施した。
- ③ 院内のLED照明への交換工事を実施した。
- ④ B棟医療ガス設備更新工事を実施した。
- ⑤ 正面玄関植え込み並びに患者駐車場の整備を実施した。
- ⑥ A棟のロスナイの取り換え工事を実施した。

(4) 地域貢献活動

- ① 公的機関、諸団体の精神保健福祉分野での協力、援助を行った。
- ② 研修医（初期、後期）、看護師、精神保健福祉士、作業療法士、公認心理師・臨床心理士の実習生の受け入れを行った。
- ③ 公的機関、地域企業へのメンタルヘルス分野での協力を行った。
- ④ 「グループホームふじみ」や「サポートセンターほっと」と連携・協力し、富士地区の法人活動を推進した。
- ⑤ 富士市医師会及び職能団体事業へは、人的派遣等で協力を行った。
- ⑥ 富士市地域防災医療計画にある救護病院（特殊病院）の役割を担っている。

(5) その他の活動

- ① 安否コール（災害安否確認システム）による情報伝達訓練を実施した。
- ② 働き方改革関連法に沿って取り組みの検討を継続し、有給休暇取得の奨励や、医師の日当直業務の回数等を軽減することに取り組んだ。
- ③ 「利用者の視点に立った良質で安全な医療の提供」の資質向上については、教育研修委員会において、倫理・接遇に関連した院内研修を開催した。
- ④ 実践報告及び研究に取り組める体制を整備し、情報発信できる人材の育成に関しては「ステップアップ活動」への取組等を通じ、成果を収めている。

2. 富士メンタルクリニック

(1) 基本情報

- ① 管理者：山本 孝
- ② 所在地：富士市本町1番2-201号 電話（代表）0545-64-7655
- ③ 診療科：精神科、心療内科
- ④ 主な届け出受理等：精神科デイケア（小規模）、精神科ショートケア（小規模）
精神科訪問看護

(2) 医療活動

① 新患受け入れ体制の迅速化

新患枠の見直しは、昨年度同様に再診枠の空枠部分も臨機応変に受け入れを行った。また、無断キャンセルを減らすため、事務より3日前に予約確認の電話を入れ、より迅速に新患の受け入れを実施した。

② 多職種間連携を強化し、更なる医療の質の向上を目指す

より緊密な多職種間の連携を図るため、毎月のクリニック会議（月曜日16時）での報・連・相を実施した。また、必要に応じて文書回覧や会議室のホワイトボードを利用しての情報交換を速やかに行った。

- ③ 訪問看護に関する内部研修の充実を図り、患者満足度の向上を目指す
訪問看護部門では内部研修で訪問看護師が求められているものを再認識した。事例検討した資料で得た知識を日々の訪問看護に活かすように心掛け、担当看護師外の看護師への情報共有を図り、迅速に対応することで患者の満足度向上に努めた。
 - ④ デイケアにおいては、季節を感じる所内外行事を実施し、利用者人数の増加と満足度の向上を目指す
メンバーの意見を取り入れ、季節を感じる行事を実施した。また、利用者人数の増加については、近隣のクリニック、病院へパンフレット等を持参、送付した。
 - ⑤ 心理検査の拡充（診断補助システムの円滑化）
発達障害の診断を希望する新患ケースが増えており、発達障害の補助診断システム（C-Pack）を含め、医師の指示に迅速に対応できるよう実施した。
- (4) 施設設備の整備計画
- ① シュレッダーの更新
使用機器自体がまだ運用出来ているため、現状維持で使用し、シュレッダーの購入には至らなかった。
- (5) その他の活動
- ① 接遇・院内外との連携の更なる充実とフィードバックの徹底
今年度は、接遇面では、紙媒体とスマートフォン（QRコード利用）を利用したネット回答のアンケートを実施した（700件弱の回答）。概ね「満足」の回答であったが、個別の接遇面での対応を求められる部分もあった。また、外部の関係機関との連絡、連携を取ることは出来ている。
 - ② ISO9001（令和1年に終了）でのノウハウを活用し効果的な運用
昨年度作成した当クリニックの業務マニュアルに基づき、医療の質や患者満足度の向上に努め、業務を実施した。
 - ③ ホームページの充実
ホームページ等を活用（新患受け入れ態勢の情報発信、当クリニックの取り組み等）し、常にホームページ等へ新しい情報を発信した。
 - ④ 医療機関との連携の更なる充実
他医療機関からの患者紹介やデイケア受け入れに関して迅速に対応した。
 - ⑤ 電子カルテの導入
電子カルテ委員会へ参加し、2025年度導入予定の電子カルテの情報共有を図った。

入院・外来取扱患者数

	入 院		外 来		デイケア		一般外来計	
	期中延	1日当	期中延	1日当	期中延	1日当	期中延	1日当
鷹 岡 病 院	44,752	122.6	23,346	79.7	5,980	24.6	29,326	100.1
富士メンタルクリニック			13,678	46.7	2,348	9.7	16,026	54.7

訪問看護・作業療法取扱患者数

	訪問看護		作業療法	
	期中延	1日当	期中延	1日当
鷹 岡 病 院	1,124	3.8	12,800	43.8
富士メンタルクリニック	67	0.2		

[沼津リハビリテーション病院グループ]

1. 概要

令和6年度における事業経過の要点は以下の通りである。

- 1) 今年度も新型コロナ・季節性インフルエンザ・多剤性菌等の感染症対策が必要であった。急性期病院の患者が新型コロナ感染症・多剤耐性菌感染症の罹患により当院へ転院の影響があったが、個室対応等のベッド調整を行い柔軟に対応した。
- 2) 急性期病院へ広報誌の発行や連携室担当者が年2回の定期訪問により当院の告知活動を行った。急性期病院からの転院に対する当院の課題や問題点等をヒアリングし、改善を行った。
- 3) 嚥下造影検査機器（VF）による摂食嚥下機能の評価体制を構築し、経鼻栄養患者の受け入れを行った。
- 4) 1)2)3)により、回復期リハビリテーション病棟の入院依頼件数が大幅に増加し病床稼働率が向上した。併せて、医療療養病棟の入院依頼件数も増加し、病床稼働率が向上した。その結果、病院全体においても病床稼働率が向上した。
- 5) 言語聴覚士を主としたセラピスト職員の増員、脳血管疾患患者の入院増加により、リハビリテーション単位数と単価の向上に繋がった。
- 6) 4)5)の効果により、入院収入が大幅な増収となった。
- 7) 令和7年1月通所リハビリテーションうしぶせを閉鎖、在宅支援事業部を新設、令和7年2月看護小規模多機能型居宅介護事業所汐かぜを開所した。訪問看護ステーションを看護小規模多機能型居宅介護の施設内に移転併設した。
- 8) 訪問看護ステーションに関しては、患者数が低調に推移した。今後、当院・新設した看護小規模多機能型居宅事業所・地域医療機関・地域包括支援センター等との連携強化が必要である。
- 9) 生産性向上及び職場環境整備の一環として、リハビリテーション支援システムの更新を実施した。
- 10) 法人にて全職員を対象としたベースアップ（賃上げ）を実施、診療報酬改定のベースアップ評価料の届出を行った。

これらの帰結として、年度医業収入が増加となった。ベースアップによる人件費の増加、物価高騰による経費の増加、病院設備の修繕費増加により費用も増えたが、大幅な増収にて収益が改善、黒字に転換することができた。

次年度も物価高騰と人件費増加が見込まれ、更に病床稼働率の向上・リハビリテーション単位のアップ・業務の効率化などが必要と考える。

COVID19のみならず、インフルエンザ等のウイルス感染症、多剤耐性菌感染拡大などのリスクも含め、今後も感染症対策の重要性には大いに留意する必要がある。

2. 沼津リハビリテーション病院

(1) 基本情報

- ① 管理者：長友 秀樹 病床数：106床
- ② 所在地：沼津市上香貫蔓陀ヶ原 2510-22 代表：055-931-1911
- ③ 診療科：リハビリテーション科、内科、神経内科、消化器内科
- ④ 主な届出受理事等：回復期リハビリテーション病棟入院料
療養病棟入院基本料
脳血管疾患等リハビリテーション（Ⅰ）
運動器リハビリテーション（Ⅰ）
通所リハビリテーション
訪問リハビリテーション

(2) 医療活動

① 回復期リハ病棟の機能維持・向上

脳卒中地域連携パス、大腿骨近位部骨折連絡会議に多種職で参加、入院支援看護師（専従）が紹介ケースに柔軟な対応を行い待機期間の短縮に努めた。回復期病床稼働率 90.9%。急性期への転院が 22 件/年、前年度比±0 となった。退院支援看護師を配置し、FIM や ICF を基に作成した退院支援アセスメントシートを活用したカンファレンスを実施、具体的な機能回復の目標をあげたケア介入した。在宅復帰率 84.1%。認知症ケアについての勉強会を実施し、対応力の向上を図り認知症高齢者の日常生活自立度判定表Ⅲ以上の患者が 55%となった。退院日を早期に決定できるようパスシートを活用した。福祉施設・行政機関・サードライン病院とのカンファレンスを 1,419 件実施、連携強化に繋がった。

② 医療療養病棟の機能改善

入院患者に対し、多職種カンファレンスの実施にて患者の全体像を共有し、ケア・処遇を検討、タイムリーな支援に繋げることができた。また、地域との連携も図り、計画的な入院（薬剤調整・リハビリ・レスパイト）に繋げた。在宅・急性期間問わず積極的に入院患者を受け入れ、退院支援シートに沿って退院支援を実施し、ケアの向上を図り在宅復帰率 92.0%となった。言語聴覚士の配置により、口腔ケアや嚥下障害訓練を強化し誤嚥性肺炎を防止した。医療区分 2.3 の割合は 91.6%と維持できた。回復期リハ非対象患者の受け入れ、急性期病院からの医療度の高い患者、難病患者の受け入れに努めた。

(3) 施設設備の整備

歩行訓練を強化するために免荷歩行訓練機器を導入、安全性を確保し歩行訓練の機会増加により患者の歩行能力が向上した。業務の効率化を目的としてリハビリ支援システムの更新を行った。PC・サーバーの更新を実施、セキュリティを強化した。医療療養病棟の機械浴槽をシャワー浴槽に更新、患者・介護職員の入浴時における負担軽減となった。院内の老朽化した空調設備の更新、漏水対策による修繕工事を実施した。

(4) 地域貢献活動

新型コロナワクチン接種に協力し、高齢者施設に出向いての接種を行った。一次救急輪番への協力、VRE（バンコマイシン耐性腸球菌）感染対策連絡会議の参加、研究への協力、大学や専門学校等の実習受託、セラピストや看護師養成にも協力した。また、静岡県が行う地域リハビリテーション強化推進事業において「オーラルフレイル」に関する研修会を開催し、地域リハビリテーション支援センターとしての機能を果たした。

(5) その他の活動

第 64 回静岡リハビリテーション懇話会を開催、院長が世話人を務め当院で企画・運営を行い、20 職種 408 名の参加、31 演題の発表が行われリハビリテーションの幅広い相互理解・発展・研鑽を努めた。

人材確保については常に課題として取り組んでいるが十分な結果は得られていない。多職種による入院受け入れ業務の再構築により業務の効率化を目指し、看護師から多職種へのタスクシフトシェアに取り組んでいる。看護師 1 名が特定行為研修を受講、今後は医師から看護師へのタスクシフトシェアに取り組む。QC サークルの活動は、法人の発表会にて 2 チームが受賞する成果があったが、各部署間での取組みの差があり全体的でのレベルアップに取り組む。

3. 訪問看護ステーションうしぶせ

(1) 基本情報

- ① 管理者：松川 香織
- ② 所在地：沼津市志下 451 番地 代表：055-931-3900
- ③ 主な届出受理等：24 時間対応体制加算、特別管理加算、ターミナルケア療養費

(2) 医療活動

24 時間の緊急対応を維持し、医療機関や在宅医、その他サービス事業所との連携により、在宅医療の推進に努めた。介護保険利用者の低迷と要介護の利用者が増え、介護保険収入が軟調に推移した。

- (3) 地域貢献活動 看護学校実習を受入れ、訪問看護の周知に努めた。

4. 看護小規模多機能型居宅介護事業所汐かぜ

(1) 基本情報

- ① 代表者：豊永 美幸
管理者：松川 香織
- ② 所在地：沼津市志下 451 番地 代表：055-934-1200
- ③ 主な届出受理等：特別管理体制、ターミナルケア体制、緊急時対応加算、総合マネジメント体制強化加算Ⅱ、褥瘡マネジメント加算

(2) 在宅支援活動

施設内覧会の実施、地域住民・地域自治会への周知活動を行い、令和 7 年 2 月開所した。要介護状態の利用者に「通い」を主体として「泊り」「訪問」サービスの円滑な提供に努め、感染症（新型コロナウイルス）の罹患等による緊急ショート利用の要請に柔軟な対応を行った。

入退院及び在院患者数

(定床：106 床)

入院	期首在院	期中入院	期中退院	期末在院	期中延	1 日当 (人/日)
医療	92	252	251	93	34,235	93.8

外来取扱患者数

外 来		通所リハビリ		訪問リハビリ	
期中延	1 日当 (人/日)	期中延	1 日当 (人/日)	期中延	1 日当 (人/日)
8,120	33.6	3,131	11.9	454	2.0

訪問看護ステーションうしぶせ取扱患者数

	訪問看護	
	期中延	1 日当 (人/日)
医療	1,801	5.8
介護	3,498	11.3
計	5,299	17.1

看護小規模多機能型居宅介護事業所汐かぜ取扱利用者数

期中延	1 日当 (人/日)
213	3.6

VI. 福祉活動

[本部・社会復帰事業部]

1. 概要

令和6年度本部においては（1）ガバナンス強化（2）システム化の推進（3）適正な人事・労務管理（4）収益力の強化の4項目を重点目標に掲げ、厳しい経営環境の中で経営の健全性を維持し、収益性を向上に取り組んできた。

運営方針である「組織力を強化し、経営の健全性を維持し、収益性を向上させる体制に変革する」については、物価高騰や人件費増加等の厳しい環境下にも拘らず、各事業所の経営努力により令和5年度の赤字から黒字に転換したことは大きな成果であった。

また、システム化の推進においては、令和6年8月に新勤怠管理システムが本格稼働し、適正な出勤管理や時間単位の有給取得が実現した。

また、人的資本経営に向けた人事制度の改定については、検討段階に留まり具体的な計画策定には至っていない。

社会復帰事業部では令和6年4月に障害福祉サービスの報酬改定があり、その改定内容に即応したことが結果的に経営面では過去にない成果を得ることができた。具体的には就労継続支援B型事業所の利用者が安定し、利用者一人ひとりに合わせた支援を行ったことが主要因である。相談支援事業所や共同生活援助事業所においても同様に、「利用者のために」という意識や頑張りが事業部全体の業績伸展に寄与した。

障害福祉の現場で大切である自律や人権擁護に対し、何ができるのかを常に考えた支援を行うために、各事業体での会議や各職場単位での話し合いが行われ、常に意識した実践を行うことができた。ピアスタッフに関しては、よりその価値が発揮できる環境の整備を検討したが、年度内に1名が退職となった事は残念であったが、そこから社会復帰事業部として反省と対応を考える機会ともなった。災害・感染症対策の見直しと地域との協働は災害対策を見直す機会とし、継続的に見直しを行っている。

感染症対策は以前の様な厳密さは若干緩和した。新型コロナウイルス感染症やインフルエンザA型に罹患する利用者や職員は散見されたものの、共同生活援助において大規模感染に至る事はなく、これまでの感染症対策の実践が身についてきた。

最後に人材確保に関しては苦戦を強いられた。募集方法や採用手段等について再検討するとともに、私たちの実践を情報発信する機会の拡大が課題となっている。人材育成は事業所ごとにOJTや法定研修の実施に励んできた。

2. 本部事務局

（1）ガバナンス強化

前月の各病院等の業績速報を報告・情報共有するとともに、課題や改善策を検討する場とて、毎月の経営会議の機能強化が図れた。

（2）システム化の推進

「新勤怠管理システム」は令和6年8月から順調に稼働し、職員の適正な労務管理に寄与している。また、社会復帰事業部の「相談支援システム」をオンプレミスからクラウド方式に更改し、令和7年6月から稼働予定である。

（3）適正な人員・労務管理

事務局として、本部と支部との良好な人間関係を図りつつ、本部と病院間での事務職員の人事交流を積極的進めた。次年度についても引き続き人事交流を推進していきたい。

(4) 収益力の強化

物品の共同購入や共同化を推進し経費削減に努めた。

新規事業については、沼津リハビリテーション病院と共同で看護小規模多機能型居宅介護事業所汝かぜの開設を支援するとともに、外部委託していた病院売店事業の譲受を行った。

3. 社会復帰事業部

1) 相談支援事業

引き続き各市町から委託相談、指定特定・一般相談支援事業をサポートセンターなかせ・ゆめワーク・ほっと・りりぶ・ひまりの5事業所で実施。年々業務の大半を占める位置づけとなっている計画相談について、令和6年度は報酬改定による影響から関連した情報を法人内相談支援専門員連絡会にて共有を図った。複数の市町にまたがり相談支援事業を展開している法人の強みを生かし、その地域性の違いを意識した仕組み作りに取り組んだ。近年各市町単位で整備されている障害者基幹相談支援センターにも積極的に関与し、関係機関と連携した個別の支援を継続して行った。県・圏域・市町それぞれの単位の自立支援協議会には、中核人材として各専門部会等に主体的・積極的に関わり、関係機関から求められる役割を果たすことを意識した。ピアスタッフ・サポーターとの協働についても、活動の場を創出する工夫など圏域・市町異なる枠組みでそれぞれ行った。

引き続き個別の支援・地域づくりに連動した形で取り組むことと並行し、法人内の相談支援事業所の体制を整え、安定的な運営と各相談支援専門員の負担軽減とやりがいに繋げていきたい。

2) 地域活動支援センター事業

サポートセンターゆめワーク、サポートセンターりりぶの2か所で実施。

今年度も感染対策を行いながら両センターともに利用者が安心できる場所を提供できるよう心掛け、創作活動、軽スポーツなどの趣味的活動や、料理教室、清掃活動などの生活支援を組み合わせるなど工夫しながら取り組むことができた。また、社会復帰事業部で雇用しているピアスタッフ（当事者）にも両センターに月1回勤務してもらうことで利用者間の定着につながり、ピア目線で語られる話が職員も良い学びの機会となった。また、社会復帰事業部内の就労支援事業所、地域活動支援センター等の合同企画として、第4回文化祭「秋ふく祭」を今年度も開催。更にコロナ禍で中止していた「ふくスポ」も再開し、今回はレクリエーションの要素を取り入れる中で幅広い年代の方に参加してもらえた。来年度も当事者主体による取り組みを行い、ピアスタッフとの協働、地域行事への参加、ボランティア育成等、地域に開かれたセンター運営に努めていきたい。

3) 共同生活援助事業

グループホームコーポ狩野・はまゆう寮・カーサ岡の宮・ふじみの4か所で実施。

新規入居者の受け入れについては、新型コロナウイルス感染症の影響を殆ど受けることなく、スムーズに進めることが出来た。また、利用者・職員に対しては継続して感染予防対策への協力を得ながらも、外出・外食や合同防災訓練の実施、レクリエーションの実施など以前と変わらない生活・活動に戻りつつある。年末から2月に掛けての感染症流行期には、各施設内でもインフルエンザの感染拡大に見舞われ、対応に追われた。

また、昨年に続き1人暮らしを希望する利用者に対し、単身生活に向けた準備とアパートでの生活の定着支援について、グループホームとしての関係性を活かして支援する事が出来た。

今後も生活の場として安心できる生活環境づくりと、地域や利用者のニーズに合わせた支援を行えるようにスタッフの資質向上・支援の担保にも努めていきたい。

4) 就労支援事業

東部圏域（沼津・三島・伊豆の国）3カ所で就労継続支援B型事業を実施。ここ数年、各地域に様々な就労系の事業所が開設される中、利用者から選ばれるよう地域や利用者のニーズを把握し、家族・関係機関とも連携した丁寧な個別支援が求められている。新型コロナウイルス感染防止対策は継続して行いながらではあるが、個々の求める働き方に対応できるように職場見学や面接同行などの機会も持つようにした。

また、前年度から再開し始めたイベントの参加等も継続している。販売のイベントでは実際にお客様と接することで実際に商品が売れているところに立ち会い、お話をする機会を得ることができて、利用者のやりがいにもつながっている。

今年度は色々な価格高騰が著しく、商品の質の担保と売値の設定に苦慮した。収益が利用者の工賃になることも踏まえ、販売している商品に見合った売値をどうしていくのかは今後も検討課題であると思われる。

今後も、一般就労への支援や利用者・家族の高齢化等様々な課題について前向きに取り組み、利用者選ばれ、安心して通所出来る環境づくりに努めていく。

2 地域貢献活動

- 1) 静岡県から委託を受け、東部圏域自立支援協議会設置及び圏域相談支援のための圏域スーパーバイザー設置事業を行い、圏域スーパーバイザーとして駿東田方圏域自立支援協議会運営に貢献した。
- 2) 沼津市、三島市、伊豆市、伊豆の国市、伊東熱海地区、富士市、長泉町地域自立支援協議会の運営に協力した。
- 3) 沼津市、伊豆の国市から委託を受け、障害支援区分認定調査を行い協力した。
- 4) 沼津市、伊東市、熱海市、伊豆市・伊豆の国市、清水町、裾野市の障害支援区分判定審査会委員として地域に貢献した。

3 社会復帰事業部各施設 取扱利用者数

相談・訪問件数（延件数）

（令和6年4月～令和7年3月）

	来 所	電 話	訪 問	その他	合 計
ゆめワーク	355	1,016	1,048	1,864	4,283
なかせ	164	2,167	1,558	4,148	8,037
ひまり	216	1,205	1,757	3,651	6,829
りりぶ	478	4,635	789	2,299	8,201
ほっと	71	956	429	1,774	3,230
合 計	1,284	9,979	5,581	13,736	30,580

地域活動支援利用状況（延人数）

（令和6年4月～令和7年3月）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
ゆめワーク	396	373	358	386	311	326	344	343	318	302	309	307	4,073
りりぶ	162	142	162	147	95	115	146	123	137	116	110	113	1,568
合計	558	515	520	533	406	441	490	466	455	418	419	420	5,641

グループホーム利用状況

（令和7年3月31日現在）

施設名	定員	出身市町													合計
		富士	沼津	伊東	富士宮	裾野	三島	御殿場	伊豆の国	熱海	伊豆	長泉	清水	その他	
ふじみ	10	3			1			1							5
カーサ岡の宮	10		4	2										2	8
はまゆう	9		2	1	1	1	1		1	1		1		9	
コーポ狩野	18	1	6	1	1		2		2		1		2	16	

就労支援事業所かのん利用状況

(令和6年4月～令和7年3月)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
月末登録者	46	46	48	48	48	48	48	48	48	48	48	51	
開所日数	24	23	24	24	22	22	25	22	23	22	21	23	275
実人数	43	41	42	45	44	43	41	40	40	40	39	38	
延人数	502	473	469	487	387	438	490	453	448	421	417	450	5,435
1日平均	20.9	20.6	19.5	19.5	17.6	19.9	19.6	20.6	19.5	21.0	19.9	19.6	19.9

就労支援事業所ワークショップまごころ利用状況

(令和6年4月～令和7年3月)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
月末登録者	35	35	36	36	36	36	36	36	35	35	34	34	
開所日数	25	24	25	26	23	23	28	26	24	22	22	25	294
実人数	31	28	31	33	31	29	31	31	31	28	28	28	
延人数	411	388	389	447	361	348	425	405	396	337	326	351	4,584
1日平均	16.4	16.2	15.6	17.2	15.7	15.1	15.1	15.6	16.5	15.3	14.8	14.1	15.7

就労支援事業所田方・ゆめワーク利用状況

(令和6年4月～令和7年3月)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
月末登録者	24	24	25	25	27	26	26	26	24	24	24	24	
開所日数	21	21	20	22	18	19	24	22	20	20	19	19	245
実人数	21	21	22	22	23	22	20	20	20	19	19	19	
延人数	315	311	303	338	282	288	311	300	274	259	275	270	3,526
1日平均	15.0	14.8	15.2	15.4	15.7	15.2	13.0	13.6	13.7	13.0	14.5	14.2	14.4

以上

VII. 地域貢献活動

〔1〕 講演開催状況

沼津中央病院

年月日	実施場所	テーマ	講師	主催又は後援
2024. 5. 31	医療法人杏和会阪南病院	精神科『身体拘束ゼロ化』のすゝめ	杉山直也	大塚製薬株式会社
2024. 5. 31	阪南病院	行動制限講演	鈴木智織	阪南病院
2024. 6. 3	院内 web 配信	精神科『身体拘束ゼロ化』のすゝめ	杉山直也	大塚製薬株式会社
2024. 7. 5	ツインメッセ静岡	「その1精神科急性期での「早期作業療法」～意義と試み～」	杉山直也	大塚製薬株式会社
2024. 7. 7	オンライン	高齢者支援研修会「ゼロから始める高齢者心理臨床」	植田裕吾	一般社団法人 日本臨床心理士会
2024. 7. 14	静岡県庁別館5階危機管理センター	令和6年度静岡DPAT研修 令和6年能登半島地震に関する静岡DPAT活動報告④ 現場隊 準備、活動、終結後 南海トラフ地震を想定して感じたこと	日野耕介	静岡県
2024. 7. 19	岡村記念病院	「ストレスとの向き合い方～ストレスってなに?～」	植田裕吾	岡村記念病院
2024. 8. 16	浜松市福祉交流センター	令和6年度精神科病院虐待対応医療従事者向け研修	植田裕吾	日本精神科看護協会静岡支部
2024. 8. 27	岡村記念病院	アンガーマネジメント	牛島一成	岡村記念病院
2024. 9. 6	長野県湯田中温泉	第32回精神科看護管理者研究会 in 長野 身体拘束ゼロ化について	佐藤義崇 内堀来未子 牛島一成	日本精神科病院学会
2024. 9. 20	プラザヴェルデ (富山県精神科医会学術講演会) 特別講演	「精神科救急・急性期におけるケアを考える～RWEの活用と精神科救急医療ガイドライン～」	杉山直也	ヤンセンファーマ株式会社
2024. 9. 20	三島市民文化会館	令和6年度精神科病院虐待対応医療従事者向け研修	植田裕吾	日本精神科看護協会静岡支部
2024. 10. 3	静岡県東部総合庁舎 (令和6年度家族のための精神保健福祉講座)	「こころの病気の理解と治療」	山下大翔	静岡県東部保健所
2024. 10. 3	院内 Web 配信 (精神科救急急性期治療を考える)	「当院における統合失調症薬物治療」	福原啓史	大塚製薬株式会社

2024. 10. 15	院内 web 配信 (Otsuka Web Seminar 長期にわたる統合失調症治療の下支えを目指して)特別講演	「精神科救急・急性期におけるケアを考える」	杉山直也	大塚製薬株式会社
2024. 10. 17	沼津商工会議所 (統合失調症シリーズ講演会【第2回】)特別講演	「精神科『身体拘束ゼロ化』のすゝめ」	杉山直也	静岡県熱海健康福祉センター
2024. 10. 25	いわて県民情報交流センター	第32回 日本精神科救急学会学術総会 精神科救急・急性期ケアの技術論に立ち返る	杉山直也	岩手医科大学医学部神経精神科学講座
2024. 11. 21	静岡県熱海総合庁舎 (令和6年度第2回精神障害者家族のためのこころの懇話会)	「精神疾患～主として統合失調症～の治療について」	道部晃	住友ファーマ株式会社
2024. 11. 22	住友ファーマ株式会社東京本社 (多職種協働スキルアップセミナー)	「行動制限最小化 当院における行動制限最小化の取り組み」	日野耕介	駿東田方圏域地域移行部会
2024. 11. 26	ふれあい沼津ホスピタル	R6 年度駿東田方圏域ピア meets ピア～移動ピア	竹内晃	駿東田方圏域地域移行部会
2024. 11. 28	沼津中央病院	R6 年度駿東田方圏域ピア meets ピア～移動ピア	竹内晃	住友ファーマ株式会社
2024. 12. 13	院内 web 配信 (Designed SDA ラツダ、その使い方に迫る)	「急性期統合失調症の診療 UPDATE ～Designed SDA Latuda の薬理作用を臨床で活かす使い方～」	杉山直也	駿東田方圏域地域移行部会
2024. 12. 24	社会福祉法人輝望会 C&C センターきぼう生きている証・劇場	R6 年度駿東田方圏域「ピア meets ピア」沼津市会場講師	竹内晃 久野満津代	富士根北中学校
2025. 1. 18	富士宮市立富士根北中学校	ドリーム・ジョブ・カレッジ	久野満津代	駿東田方圏域地域移行部会
2025. 1. 22	三島市社会福祉会館	R6 年度駿東田方圏域「ピア meets ピア」三島市会場講師	竹内晃 久野満津代	ヤンセンファーマ株式会社
2025. 1. 23	院内 web 配信 (HOPE IN SCHIZOPHRENIA)	「精神科救急・急性期におけるケアを考える～パリペリドン製剤の有用性を含めて～」	杉山直也	駿東田方圏域地域移行部会
2025. 1. 31	伊豆函南病院	R6 年度駿東田方圏域ピア meets ピア～移動ピア	竹内晃	武田薬品工業株式会社
2025. 2. 6	院内 web 配信 (NeuroScienceAcademicMeeting 身体的拘束最小化への取り組み)	「身体的拘束最小化への取り組み」	杉山直也	静岡県熱海健康福祉センター
2025. 2. 13	静岡県熱海総合庁舎 (令和6年度熱海伊東圏域自殺対策ネットワーク会議)	「児童の自殺企図・未遂の考え方について～児童精神科外来の立場から～」	高貝就	大塚製薬株式会社

2025. 2. 18	プラザヴェルデ (「行動制限最小化」について考える会)	「精神科『身体拘束ゼロ化』のすゝめ」	杉山直也	駿東田方圏域地域移行部会
2025. 2. 25	ふれあい沼津ホスピタル	R6 年度駿東田方圏域ピア meets ピア～移動ピア	竹内晃	大塚製薬株式会社
2025. 3. 6	プラザヴェルデ (磐周医師会・磐田市医師会学術講演会)特別講演	「プライマリケアのためのうつ病診療のファーストタッチ」	杉山直也	磐周医師会、磐田医師会 ヴィアトリス製薬
2025. 3. 12	ホテルサンバレー富士見 (令和6年度田方医師会災害時対応医療研修会)	「災害支援者のメンタルヘルス～支援者のここを守るには～」	浅倉博幸	田方医師会
2025. 3. 21	プラザヴェルデ (第10回熊本県精神科救急病棟 Skill UP Meeting) 特別講演	「精神科救急・急性期におけるケアを考える」	杉山直也	大塚製薬株式会社

沼津リハビリテーション病院

年月日	実施場所	テーマ	講師	主催又は後援
2024. 4. 8	藤井原町自治会館	フレイル予防講座（講義と運動） 沼津ふるさとの街①	西島勇	沼津市長寿福祉課
2024. 4. 15	藤井原町自治会館	フレイル予防講座（講義と運動） 沼津ふるさとの街②	山田純平	沼津市長寿福祉課
2024. 4. 22	下香貫自治会館	フレイル予防講座（講義と運動） 沼津ふるさとの街③	鈴木康弘	沼津市長寿福祉課
2024. 7. 24	西浦地区センター	フレイル予防と運動の関連性	平柳良太	沼津市長寿福祉課
2024. 7. 31	西浦地区センター	社会的フレイルについて	鈴木惇也	沼津市長寿福祉課
2024. 9. 25	くらら戸田	運動の必要性和自宅のできる運動	西島勇	沼津市長寿福祉課
2024. 11. 13	沼津リハビリテーション病院	ご存知ですか？オーラルフレイル！ ～早めの予防でいつまでも食べられるお口づくりを～	リハビリテーション課	駿東田方圏域リハビリテーション強化推進事業（静岡県東部保健所）
2025. 3. 10	くらら戸田	運動の必要性和自宅のできる運動	西島勇	沼津市長寿福祉課
2025. 3. 19	下香貫自治会館	フレイル予防講座（講義と運動） 沼津ふるさとの街④	中村紘也	沼津市長寿福祉課

社会復帰事業部

年月日	実施場所	テーマ	講師	主催又は後援
2024. 6. 31	長泉町役場	重層的支援体制整備事業について	佐藤聖美	長泉町福祉保険課
2024. 7. 10	韮山保健福祉センター	伊豆の国市保健委員ゲートキーパー養成講座	青木大輔 武井紗知	伊豆の国市
2024. 7. 16	国際医療福祉大学	精神看護学演習	鈴木伸二 石川淳 山崎将展	国際医療福祉大学

2024. 8. 28	静岡県総合庁舎	精神保健福祉業務基礎研修会	鈴木伸二 石川淳 山崎将展	静岡県精神保健福祉センター
2024. 9. 19 10. 31 12. 14	静岡県総合社会福祉会館	令和6年度相談支援従事者現任研修	佐藤聖美	静岡県
2024. 9. 19 9. 20 11. 11 12. 14 12. 17	静岡県総合福祉会館 シズウェル	令和6年度相談支援従事者現任研修 演習講師	鈴木伸二	静岡県
2024. 10. 17 10. 27	静岡県総合社会福祉会館	静岡県精神障害者ピアサポート研修 (専門研修)	石川淳 山崎将展	静岡県
2024. 11. 22	ぬくもりの郷	春風会職員研修	青木大輔 武井紗知	春風会
2024. 11. 26	韮山保健・福祉センター	伊豆の国市市民後見人フォローアップ研修	青木大輔 武井紗知	伊豆の国市・伊豆市社会福祉協議会
2025. 1. 16 1. 17	静岡県総合社会福祉会館	主任相談支援専門員研修	鈴木伸二	静岡県
2025. 1. 28 1. 29	静岡産業経済会館	精神障害者ピアサポート研修(フォローアップ研修)	佐藤聖美 鈴木伸二 石川淳 山崎将展	静岡県
2025. 3. 11	東部総合庁舎	駿東田方圏域自立支援協議会地域移行部会研修会	鈴木伸二	東部健康福祉センター

〔2〕 嘱託医の受託

病 院	施 設 名	担 当 医
沼津中央病院	(福)高尾園 春風会 (福)野菊寮 (福)悠雲寮 静香会 (福)遊法苑 宏寿会 社会福祉法人ミルトス会 駿東学園 名古屋国税局 精神科専門医	神野恭輔 梶本光要 梶本光要 浅倉博幸 浅倉博幸 坂 晶
大手町クリニック	沼津工業高等専門学校	志澤容一郎
鷹岡病院	(株)東芝キャリア 三生医薬(株)	高木啓 高木啓
沼津リハビリテーション病院	(福)信愛会 めまづホーム (福)信愛会 和みの郷	杉山元信 杉山元信

〔3〕 実習病院の受託

病 院	委 託 施 設 ・ 機 関 等
沼 津 中 央 病 院	国際医療福祉大学 小田原保健医療学部 5/27～7/19 1名（作業療法士） 御殿場看護学校 独立行政法人国立病院機構 静岡医療センター附属静岡看護学校 静岡県立看護専門学校 静岡大学大学院 順天堂大学保健看護学部 聖隷クリストファー大学 作業療法学科 4/8～5/24 1名（作業療法士） 東北福祉看護学校 常葉大学健康科学部看護学科 常葉大学大学院 日本精神科看護協会認定看護師 沼津市立看護専門学校 静岡県立大学看護学部
鷹 岡 病 院	富士市立看護専門学校第1看護学科 静岡県立看護専門学校第2看護学科 静岡福祉大学社会福祉学部 福祉心理学科 山梨県立大学人間福祉学部 福祉コミュニティ学科 日本福祉大学通信教育科 聖徳大学通信教育部心理・福祉学部社会福祉学科 国際医療福祉大学小田原保健医学部作業療法学科 聖隷クリストファー大学リハビリテーション学部作業療法学科 富士リハビリテーション大学校作業療法学科 静岡英和学院大学人間社会学部人間社会学科 静岡大学大学院人文社会科学研究科臨床心理学コース
沼津リハビリテーション病院	聖隷クリストファー大学 リハビリテーション学部 作業療法学科・言語聴覚学科 常葉大学 健康科学部 静岡理学療法学科 国際医療福祉大学 小田原保健医療学部 理学療法学科 静岡東都医療専門学校 理学療法学科 専門学校 富士リハビリテーション大学校 理学療法学科・作業療法学科 専門学校 中央医療健康大学校 理学療法学科 静岡医療科学専門大学校 理学療法学科 医療専門学校水戸メディカルカレッジ 理学療法学科 東都大学 沼津ヒューマンケア学部 看護学科 独立行政法人国立病院機構 静岡医療センター附属静岡看護学校 順天堂大学 保健看護学部 静岡県看護協会（静岡県立沼津東高等学校・沼津西高等学校・沼津城北高等学校・沼津市立沼津高等学校・学校法人沼津学園 桐陽高等学校）

訪問看護ステーションうしぶせ	静岡県立看護専門学校 沼津市立看護専門学校 独立行政法人国立病院機構 静岡医療センター附属静岡看護学校
----------------	---

〔４〕 大学・看護学校への講師派遣

病 院	施 設 名	講 師
沼 津 中 央 病 院	御殿場看護学校 済生会静岡看護専門学校 独立行政法人国立病院機構 静岡医療センター附属看護学校 静岡県立看護専門学校 静岡県立大学看護学部 静岡福祉大学 静岡福祉大学「健康・医療心理学」 沼津市立看護専門学校	飯塚 香織・牛島 一成 小林 久美子 植田 裕吾 葛城 芳弘・山田 信昭 井本 亘重・伊東 慎佑 市川 容代・小嶋 有美 麻場 英聖 麻場 英聖 植田 裕吾 竹内 晃 今井 亮太・飯塚 香織 麻場 英聖
大 手 町 ク リ ニ ッ ク	独立行政法人国立病院機構 静岡医療センター附属静岡看護学校	葛城 芳弘
鷹 岡 病 院	富士市立看護専門学校 JA 静岡厚生連するが看護専門学校 静岡英和学院大学 日本福祉大学 聖隷クリストファー大学	曾根 満寿代・渡辺 睦子 久保 伸年・山口 雅弘 曾根 満寿代 久保 伸年 山口 雅弘・白川 怜小 小山 隆太
富 士 メ ン タ ル ク リ ニ ッ ク	富士市立看護専門学校	鈴木 順一
沼津リハビリテーション病院	静岡東都医療専門学校 理学療法学科 富士リハビリテーション大学校 理学療法学科 静岡東都医療専門学校 理学療法学科	西島 勇 白井 伸洋 福澤 大輝
社 会 復 帰 事 業 部	沼津市立看護専門学校 静岡福祉大学	青木 大輔・小山 千菜美 山下 圭美・石川 淳 澤野 文彦

〔5〕 関連諸団体の活動 (管理者のみ)

病 院	活 動 内 容	役 職 名	担 当 者
沼 津 中 央 病 院	日本精神科救急学会	理事長、理事 評議員	杉 山 直 也
	日本精神科救急学会 教育研修委員会	委 員	杉 山 直 也
	日本精神科救急学会 医療政策委員会	委 員	杉 山 直 也
	日本精神科救急学会 認定医制度委員会	委 員	杉 山 直 也
	日本自殺予防学会	理 事	杉 山 直 也
	国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所 地域精神保健・法制度研究部	客 員 研 究 員	杉 山 直 也
	日本医療機能評価機構 検討会	委 員	杉 山 直 也
	横浜市立大学	客 員 教 授	杉 山 直 也
	日本精神科病院協会	代 議 員	杉 山 直 也
	日本精神科病院協会 政策委員会	委 員	杉 山 直 也
	静岡県精神科病院協会	副会長、理事	杉 山 直 也
	静岡県精神保健福祉協会	評 議 員	杉 山 直 也
	沼津市立病院・静岡医療センター合同	委 員	杉 山 直 也
	地域医療支援病院運営委員会		
	沼津市立病院地域医療連携推進委員会	委 員	杉 山 直 也
	静岡医療センター地域医療支援病院運営委員会	委 員	杉 山 直 也
	静岡県東部精神科医会	代 表 世 話 人	杉 山 直 也
	静岡県精神科救急医療研究会	世 話 人	杉 山 直 也
	地方公務員災害補償基金静岡支部	相 談 医	杉 山 直 也
	日本臨床救急医学会		
	PEEC コース運営および新コース開催 ワーキンググループ	委 員 長	日 野 耕 介
	日本臨床救急医学会 病院前救護における自殺企図者 のケア方法を普及させるためのワーキンググループ	委 員	日 野 耕 介
	日本臨床救急医学会 妊産婦の自殺予防のためのワーキンググループ	委 員	日 野 耕 介
	日本精神科救急医学会 救急医療連携推進小委員会	委 員	日 野 耕 介
	日本総合病院精神医学会 身体科救急連携委員会	委 員	日 野 耕 介
	日本精神科救急学会	代 議 員	日 野 耕 介
	日本精神科看護協会静岡県支部	支 部 長	牛 島 一 成
	静岡県病院薬剤師会	評 議 員	秋 山 和 美
	静岡県病院薬剤師会	学術部精神科委員	秋 山 和 美
	静岡県治験ネットワーク推進部会	委 員	秋 山 和 美
	裾野市障害支援区分判定審査会	委 員	杉 山 智 子
	沼津市障害支援区分判定審査会	委 員	久 野 満 津 代
	静岡県精神医療審査会	委 員	久 野 満 津 代
	全国医事研究会	理 事	田 畑 久 美
	日本病院会 診療報酬作業小委員会	特 別 委 員	田 畑 久 美
	全国病院経営管理学会 医事業務委員会	委 員	田 畑 久 美

鷹岡病院	静岡県障害者スポーツ協会	評 議 員	石田多嘉子
	静岡県精神保健福祉協会	常 務 理 事	高木 啓
	認知症の人と家族の会静岡支部	顧 問	高木 啓
	富士市医師会	監 事	高木 啓
	ユニバーサル就労を拓げる会	顧 問	高木 啓
沼津リハビリテーション病院	看看連携 沼津・清水町・長泉町（静岡県看護協会）		豊永 美幸
	看看連携 沼津・清水町・長泉町（静岡県看護協会）		長倉 雅希
あたま中央クリニック	静岡県看護協会 地区支部委員会	幹 事	葛城 芳弘
	静岡県看護協会 「看護の日」記念行事	協 力 員	葛城 芳弘
	静岡県看護協会 熱海・伊東地区災害訓練	幹 事	葛城 芳弘
	静岡県看護協会 熱海・伊東地区支部研修会	幹 事	葛城 芳弘

〔6〕 公的機関の医療・福祉活動への協力

沼津中央病院

活 動 内 容	役 職 名	公 的 機 関 名	担 当 者
DPAT 運営協議会	委 員	厚生労働省委託業務 DPAT 事務局	杉山直也
いのち支える沼津市自殺対策計画策定懇話会	会 長 ・ 委 員	沼津市健康づくり課成人保健係	杉山直也
静岡 DPAT 連絡協議会	委 員	静岡県健康福祉部障害者支援局	杉山直也
静岡県公安委員会	認 定 医	静岡県公安委員会	杉山直也
静岡県自殺対策連絡協議会	委 員	静岡県健康福祉部障害者支援局	杉山直也
静岡県精神医療審査会	委員・会長代理	静岡県健康福祉部障害者支援局	杉山直也
静岡県精神科救急医療システム連絡調整委員会	委 員	静岡県健康福祉部障害者支援局	杉山直也
静岡県精神保健福祉審議会	委 員	静岡県健康福祉部障害者支援局	杉山直也
静岡県措置入院適正運営協議会	委 員	静岡県健康福祉部障害者支援局	杉山直也
清水町自殺対策推進連絡協議会	会 長 ・ 委 員	清水町福祉介護課	杉山直也
駿東田方圏域認知症疾患医療連携協議会	委 員	駿東田方圏域認知症疾患医療連携協議会委員	杉山直也
駿東田方圏域保険医療協議会	委 員	駿東田方圏域保険医療協議会	杉山直也
駿東田方構想区域地域医療構想調整会議	委 員	静岡県東部健康福祉センター	杉山直也
精神科医会	会 長	沼津医師会	杉山直也
措置入院適正運営協議会 熱海保健所部会	委 員	静岡県熱海保健所	杉山直也
措置入院適正運営協議会 東部保健所部会	委 員	静岡県東部保健所	杉山直也
認知症対策委員会	委 員	沼津医師会	杉山直也
沼津・御殿場地域産業保健センター運営協議会	委 員	独立行政法人労働者健康安全機構 静岡県産業保健総合支援センター	杉山直也
沼津市自殺対策連絡会	アドバイザー	沼津市健康づくり課成人保健係	杉山直也
ふじのくに地域医療支援センター東部支部	運 営 委 員	ふじのくに地域医療支援センター東部支部	杉山直也
静岡 DPAT 連絡協議会	委 員	静岡県健康福祉部障害者支援局	日野耕介
駿東・田方圏域認知症疾患医療連携協議会	委 員	静岡県東部健康福祉センター	日野耕介
東京都杉並区自殺未遂者支援事例検討会	スパーアドバイザー	杉並保健所	日野耕介
学生生活支援室専門職会議でのアドバイス	精 神 科 医 師	沼津工業高等専門学校	志澤 容一郎
静岡県警察本部職場復帰相談	相 談 医	静岡県警察本部	志澤 容一郎
静岡県職員健康相談（メンタルヘルス）	非常勤健康相談員	静岡県	志澤 容一郎
伊豆市老人ホーム入所判定部会	委 員	伊豆市事務所	坂 晶
伊豆の国市老人ホーム入所判定部会	委 員	伊豆の国市福祉事務所	坂 晶

小山町老人ホーム入所判定部会	委 員	駿東郡小山町事務所	坂 晶
函南町老人ホーム入所判定部会	委 員	函南町事務所	坂 晶
清水町老人ホーム入所判定部会	委 員	清水町事務所	坂 晶
裾野市老人ホーム入所判定部会	委 員	裾野市福祉事務所	坂 晶
東部健康福祉センター生活保護課生保審査会	委 員	東部健康福祉センター生活保護課生保審査会	坂 晶
長泉町老人ホーム入所判定部会	委 員	長泉町事務所	坂 晶
沼津警察署犯罪被害者支援連絡協議会	委 員	沼津警察署	坂 晶
沼津市就学支援委員会	委 員	沼津市教育委員会	伊 藤 慶
静岡県摂食障害対策推進協議会	委 員	静岡県健康福祉部障害者支援局	横 島 孝 至
熱海伊東圏域自立支援協議会地域移行部会	委 員	静岡県熱海健康福祉センター	寺 田 朝 子
伊豆市いのち支える自殺対策協議会	委 員	伊豆市健康長寿課	寺 田 朝 子
沼津市自立支援協議会地域移行専門部会	構 成 員	沼津市障害福祉課	寺 田 朝 子
こころの健康相談員	課 長	清水町役場	市 川 容 代
カウンセラー	カウンセラー	認定NPO法人静岡犯罪被害者支援センター	植 田 裕 吾
倫理委員長、医療保健領域委員、高齢者福祉委員、研修委員	理 事	一般社団法人 静岡県公認心理師協会	植 田 裕 吾
静岡県看護協会東部地区支部役員会	訪 問 看 護 係 長	静岡県看護協会	小 野 三 佳
静岡県精神医療審査会	委 員	静岡県	久 野 満 津 代
駿東田方圏域自立支援協議会地域移行部会	構 成 員	静岡県東部健康福祉センター	杉 山 智 子
清水町障害者自立支援協議会	委 員	清水町	平 井 智 未
ピア交流会	委 員	静岡県	竹 内 晃
静岡県自立支援協議会地域移行部会	委 員	静岡県	竹 内 晃

大手町クリニック

活 動 内 容	役 職 名	公 的 機 関 名	担 当 者
熱海伊東地区 精神障害者部会	関 係 職 員		葛 城 芳 弘

鷹岡病院

活 動 内 容	役 職 名	公 的 機 関 名	担 当 者
静岡県精神科救急システム連絡調整委員会	委 員	静岡県健康福祉部障害者支援局障害福祉課	高 木 啓
静岡県摂食障害対策推進協議会	委 員	静岡県健康福祉部障害者支援局障害福祉課	高 木 啓
静岡県DPAT連絡協議会	委 員	静岡県健康福祉部障害者支援局障害福祉課	高 木 啓
静岡県医療観察制度運営連絡協議会	協 議 員	静岡保護観察所	高 木 啓
静岡地方労災医員	医 員	静岡労働局	高 木 啓
一般医から精神科医への紹介システム運営委員会	委 員	富士市医師会	高 木 啓
富士市生活保護法審査会	委 員	富士市福祉部福祉総務課	谷 口 弘 樹
富士市老人ホーム入所判定委員会	委 員	富士市福祉部高齢者支援課	高 木 啓
富士市認知症施策推進検討委員会	委 員 長	富士市保健部介護保険課	高 木 啓
富士市認知症施策推進検討委員会	委 員	富士市保健部介護保険課	水 野 拓 二
富士市障害者自立支援協議会代表者会議	委 員	富士市福祉部障害福祉課	高 木 啓
富士市差別解消支援協議会	委 員	富士市福祉部障害福祉課	高 木 啓
富士市自殺対策推進会議	会 長	富士市保健部健康政策課	高 木 啓
〃	委 員	〃	久 保 伸 年
富士宮市認知症医療研究会	委 員	富士宮市高齢介護支援課	高 木 啓
静岡市精神医療審査会	委 員	静岡市こころの健康センター	高 木 啓
富士圏域自立支援協議会	構 成 員	富士健康福祉センター	高 木 啓
富士圏域地域包括ケア推進ネットワーク会議	委 員	富士健康福祉センター	高 木 啓
富士圏域地域医療構想調整会議	委 員	富士健康福祉センター	高 木 啓
富士圏域自殺未遂者支援ネットワーク会議	委 員	富士保健所	高 木 啓

富士圏域措置入院適正運営協議会	委 員	富士保健所	高 木 啓
富士市いじめ問題対策推進委員会	委 員	富士市教育委員会	高 木 啓
富士市立中央病院臨床研修管理委員会	委 員	富士市立中央病院	高 木 啓
富士宮市立病院臨床研修管理委員会	委 員	富士宮市立病院	高 木 啓
ふじのくに地域医療支援センター東部支部運営会議	委 員	東部保健所	高 木 啓
医療観察法研究協議会	委 員	静岡地方裁判所	高 木 啓
静岡県自立支援協議会地域移行部会	委 員	静岡県健康福祉部障害者支援局障害福祉課	曾 根 満 寿 代
富士圏域自立支援協議会地域移行定着部会	部 会 長	富士健康福祉センター	山 口 雅 弘
〃	構 成 員	〃	曾 根 満 寿 代
〃	〃	〃	川 口 恭 子
富士警察署犯罪被害者支援連絡協議会	委 員	富士警察署	久 保 伸 年
富士市障害支援区分認定審査会	委 員	富士市福祉部障害福祉課	白 川 怜 小
富士宮市権利擁護ネットワーク会議	委 員	富士宮市介護障害支援課	山 口 雅 弘
御殿場市いじめの防止等対策推進委員会	委 員	御殿場市教育委員会	山 口 雅 弘
小山町いじめ問題専門委員会	委 員	小山町教育委員会	山 口 雅 弘

沼津リハビリテーション病院

活 動 内 容	役 職 名	公 的 機 関 名	担 当 者
沼津市ほか3市町介護認定審査会	認 定 審 査 委 員	沼津市介護保険課	長 倉 雅 希
沼津市フレイル予防事業	フレイルトレーナー	沼津市長寿福祉課	西 島 勇

訪問看護ステーションうしづせ

活 動 内 容	役 職 名	公 的 機 関 名	担 当 者
沼津市ほか3市町介護認定審査会	認 定 審 査 委 員	沼津市介護保険課	松 川 香 織
ACP実践力向上ワーキンググループ	委 員	静岡県医師会シズケアサポートセンター	松 川 香 織

社会復帰事業部

活 動 内 容	役 職 名	公 的 機 関 名	担 当 者
静岡県自立支援協議会委員	委 員	静岡県	鈴 木 伸 二
駿東田方圏域自立支援協議会地域移行部会	部 会 長	東部健康福祉センター	鈴 木 伸 二
熱海・伊東圏域自立支援協議会地域移行部会	部 会 長	熱海健康福祉センター	秋 津 崇 史
富士圏域自立支援協議会	委 員	富士健康福祉センター	北 舘 美 沙 依
沼津市障害者自立支援協議会 相談部会	部 会 長	沼津市	鈴 木 伸 二
沼津市障害者自立支援協議会 地域移行部会	部 会 長	沼津市	澤 野 文 彦
熱海市障害支援区分等判定審査会	審 査 委 員	熱海市	鈴 木 伸 二
熱海・伊東地区自立支援協議会精神障害部会	部 会 長	熱海市・伊東市	秋 津 崇 史
熱海・伊藤圏域自立支援協議会発達障害ワーキング	メ ン バ ー	熱海市・伊東市	秋 津 崇 史
伊東市障害支援区分判定等審査会	審 査 委 員	伊東市	鈴 木 伸 二
伊豆市地域自立支援協議会	副 会 長	伊豆市	青 木 大 輔
伊豆市なんでもかんでも相談会	相 談 員	伊豆市	武 井 紗 知
伊豆市・伊豆の国市障害支援区分等判定審査会	審 査 委 員	伊豆市・伊豆の国市	青 木 大 輔
伊豆の国市地域自立支援協議会	協 議 ・ 運 営	伊豆の国市	青 木 大 輔
伊豆の国市地域自立支援協議会精神包括ケアシステム部会	部 会 長	伊豆の国市	小 山 千 菜 美
沼津市障害者支援区分認定調査	調 査 員	沼津市	内 藤 治 子
富士市障害者自立支援協議会就労部会	部 会 長	富士市	田 尻 ゆ き
富士市障害者自立支援協議会	事 務 局 長	富士市	田 尻 ゆ き
清水町障害支援区分認定審査会	審 査 委 員	清水町	勝 又 美 智 子

〔7〕 受託事業

所 属	受 託 事 業 名
鷹 岡 病 院	静岡県精神障害者地域移行支援者連携事業 静岡県精神障害者地域生活支援訪問事業 富士市認知症初期集中支援推進事業 認知症の人をみんなで支える地域づくり推進事業
沼津リハビリテーション病院	生活機能向上連携（愛の家）理学療法士派遣 駿東田方地域リハビリテーション強化推進事業 支援センター 第64回 静岡リハビリテーション懇話会
社 会 復 帰 事 業 部	静岡県圏域スーパーバイザー設置事業 重層的支援体制整備移行事業（長泉町）

Ⅷ. 職員配置状況

沼津中央病院

令和7年3月31日現在

職種	前期末在籍数			期中増減			当期在籍数		
	正職員	準職員	非常勤	正職員	準職員	非常勤	正職員	準職員	非常勤
医師職	18		3				18		3
看護職	105	7	12	-5	-2	4	100	5	16
介護職	22	5	2	1		2	23	5	4
医療技術職	21		5	3		-1	24		4
福祉職	9		1	-1			8		1
事務職	16	1	1				16	1	1
労務職	17	1	2				17	1	2
合計	208	14	26	-2	-2	5	206	12	31

大手町クリニック

職種	前期末在籍数			期中増減			当期在籍数		
	正職員	準職員	非常勤	正職員	準職員	非常勤	正職員	準職員	非常勤
医師職	1						1		
看護職	5	1	1	-1			4	1	1
医療技術職	1						1		
福祉職	1						1		
事務職	2						2		
合計	10	1	1	-1			9	1	1

あたま中央クリニック

職種	前期末在籍数			期中増減			当期在籍数		
	正職員	準職員	非常勤	正職員	準職員	非常勤	正職員	準職員	非常勤
医師職	1						1		
看護職	2						2		
事務職	1			1			2		
合計	4			1			5		

訪問看護ステーションふじみ

職種	前期末在籍数			期中増減			当期在籍数		
	正職員	準職員	非常勤	正職員	準職員	非常勤	正職員	準職員	非常勤
看護職	8	1					8	1	
合計	8	1					8	1	

鷹岡病院

職種	前期末在籍数			期中増減			当期在籍数		
	正職員	準職員	非常勤	正職員	準職員	非常勤	正職員	準職員	非常勤
医師職	8	1	2				8	1	2
看護職	49	2	12	-2	2		47	4	12
介護職	16	3	4	1		-2	17	3	2
医療技術職	15		4	1			16		4
福祉職	8		1	-1			7		1
事務職	13	1		-1	1		12	2	
労務職	12		2	-1	1		11	1	2
合計	121	7	25	-3	4	-2	118	11	23

富士メンタルクリニック

職種	前期末在籍数			期中増減			当期在籍数		
	正職員	準職員	非常勤	正職員	準職員	非常勤	正職員	準職員	非常勤
医師職		1	1	1	-1	1	1		2
看護職	2	1		-1			1	1	
医療技術職	2			-1			1		
事務職	2	1					2	1	
合計	6	3	1	-1	-1	1	5	2	2

沼津リハビリテーション病院

職種	前期末在籍数			期中増減			当期在籍数		
	正職員	準職員	非常勤	正職員	準職員	非常勤	正職員	準職員	非常勤
医師職	4		25			2	4		27
看護職	37	3	6	-7	1		30	4	6
介護職	31	4	3	-5			26	4	3
医療技術職	51		6	1		-1	52		5
福祉職	2			1			3		
事務職	12		1	2			14		1
労務職	9		4			-1	9		3
合計	146	7	45	-8	1		138	8	45

訪問看護ステーションうしぶせ

職種	前期末在籍数			期中増減			当期在籍数		
	正職員	準職員	非常勤	正職員	準職員	非常勤	正職員	準職員	非常勤
看護職	5		1	-1	1		4	1	1
医療技術職	1						1		
合計	6		1	-1	1		5	1	1

看護小規模多機能型居宅介護事業所汝かぜ

職種	前期末在籍数			期中増減			当期在籍数		
	正職員	準職員	非常勤	正職員	準職員	非常勤	正職員	準職員	非常勤
看護職				2			2		
介護職				5	2	1	5	2	1
医療技術職				2		1	2		1
福祉職				1			1		
労務職						1			1
合計				10	2	3	10	2	3

サポートセンターなかせ

職種	前期末在籍数			期中増減			当期在籍数		
	正職員	準職員	非常勤	正職員	準職員	非常勤	正職員	準職員	非常勤
福祉職	4		3	-1			3		3
合計	4		3	-1			3		3

サポートセンターりりふ

職種	前期末在籍数			期中増減			当期在籍数		
	正職員	準職員	非常勤	正職員	準職員	非常勤	正職員	準職員	非常勤
介護職			1						1
福祉職	3					1	3		1
合計	3		1			1	3		2

サポートセンターゆめワーク

職種	前期末在籍数			期中増減			当期在籍数		
	正職員	準職員	非常勤	正職員	準職員	非常勤	正職員	準職員	非常勤
福祉職	4		1		1	-1	4	1	
労務職									
合計	4		1		1	-1	4	1	

サポートセンターほっと

職種	前期末在籍数			期中増減			当期在籍数		
	正職員	準職員	非常勤	正職員	準職員	非常勤	正職員	準職員	非常勤
福祉職	3			-1		1	2		1
合計	3			-1		1	2		1

サポートセンターひまり

職種	前期末在籍数			期中増減			当期在籍数		
	正職員	準職員	非常勤	正職員	準職員	非常勤	正職員	準職員	非常勤
福祉職	4						4		
合計	4						4		

カーサ岡の宮

職種	前期末在籍数			期中増減			当期在籍数		
	正職員	準職員	非常勤	正職員	準職員	非常勤	正職員	準職員	非常勤
介護職		1						1	
事務職		1						1	
合 計		2						2	

はまゆう寮

職種	前期末在籍数			期中増減			当期在籍数		
	正職員	準職員	非常勤	正職員	準職員	非常勤	正職員	準職員	非常勤
看護職						1			1
介護職			1						1
福祉職			1	1			1		1
合 計			2	1		1	1		3

グループホームふじみ

職種	前期末在籍数			期中増減			当期在籍数		
	正職員	準職員	非常勤	正職員	準職員	非常勤	正職員	準職員	非常勤
看護職			1						1
介護職			1						1
合 計			2						2

コーポ狩野

職種	前期末在籍数			期中増減			当期在籍数		
	正職員	準職員	非常勤	正職員	準職員	非常勤	正職員	準職員	非常勤
介護職		2	1					2	1
福祉職	4						4		
合 計	4	2	1				4	2	1

就労支援事業所かのん

職種	前期末在籍数			期中増減			当期在籍数		
	正職員	準職員	非常勤	正職員	準職員	非常勤	正職員	準職員	非常勤
福祉職	4		5			-1	4		4
労務職			4						4
合 計	4		9			-1	4		8

ワークショップまごころ

職種	前期末在籍数			期中増減			当期在籍数		
	正職員	準職員	非常勤	正職員	準職員	非常勤	正職員	準職員	非常勤
介護職		1	1					1	1
福祉職	2		4				2		4
合 計	2	1	5				2	1	5

就労支援事業所田方・ゆめワーク

職種	前期末在籍数			期中増減			当期在籍数		
	正職員	準職員	非常勤	正職員	準職員	非常勤	正職員	準職員	非常勤
福祉職	2		2			1	2		3
事務職			1						1
労務職			2			-1			1
合計	2		5				2		5

本 部

職種	前期末在籍数			期中増減			当期在籍数		
	正職員	準職員	非常勤	正職員	準職員	非常勤	正職員	準職員	非常勤
福祉職	1						1		
事務職	7	1			-1	1	7		1
合計	8	1			-1	1	8		1

合 計

職種	前期末在籍数			期中増減			当期在籍数		
	正職員	準職員	非常勤	正職員	準職員	非常勤	正職員	準職員	非常勤
医師職	32	2	31	1	-1	3	33	1	34
看護職	213	15	33	-15	2	5	198	17	38
介護職	69	16	14	2	2	1	71	18	15
医療技術職	91		15	6		-1	97		14
福祉職	51		18	-1	1	1	50	1	19
事務職	53	5	3	2		1	55	5	4
労務職	38	1	14	-1	1	-1	37	2	13
合計	547	39	128	-6	5	9	541	44	137

※管理者含む

以上